

広帯域ハンディレシーバー  
**IC-R15**

本書では、本製品の詳細な機能について説明しています。  
基本的な操作方法については、簡易マニュアルをご覧ください。

はじめに

1 電源

2 microSDカードの使いかた

3 メモリーチャンネル

4 スキャン

5 ラジオ

6 録音/再生

7 セットモード

8 詳細な機能と操作

9 ファームアップ

10 別売品

11 定格

---

# はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、エアバンド2波同時受信対応の携帯型受信機です。

ご使用前に、取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分に発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

---

## 取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、本製品に付属の「簡易マニュアル」と、弊社ホームページに掲載の各説明書(PDFファイル)で構成されています。

### 簡易マニュアル(冊子)

はじめて本製品をお使いになる前に、知っておいていただきたい安全上のご注意や本製品の基本的な操作方法などについて記載しています。

### 補足説明書(PDFファイル)

リモート機能(CI-Vによるシリアル通信)で使用する制御コマンドについて記載しています。

### 活用マニュアル(本書)

各種機能の使用方法について記載しています。

- ◎電源
- ◎microSDカードの使いかた
- ◎メモリーチャンネル
- ◎スキャン
- ◎ラジオ
- ◎録音/再生
- ◎セットモード
- ◎詳細な機能と操作
- ◎ファームアップ
- ◎別売品
- ◎定格

※弊社ホームページに「アマチュア無線用語集」(PDFファイル)を掲載していますので、必要に応じてご覧ください。

---

## 登録商標/著作権について

アイコム、ICOM、ICOMロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

Microsoft、Windowsは、マイクロソフト企業グループの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

# はじめに

## 文字編集

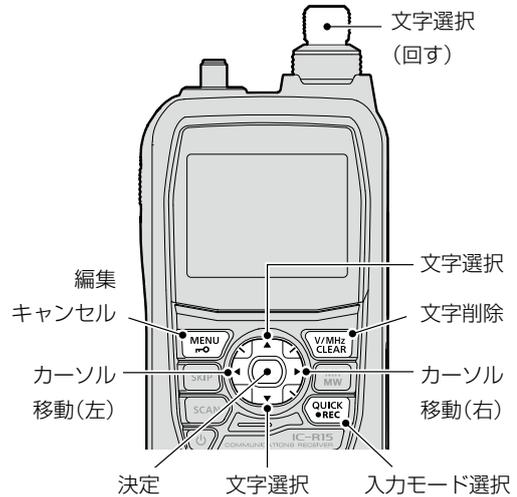
本製品で入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、および記号です。  
※設定項目により、入力できる文字が異なりますので、iiiページの表でご確認ください。

### 文字入力のしかた

本製品で入力できる文字は、英数字とカタカナ、ひらがな、漢字および記号です。

#### ◎ 文字編集での操作

- 文字を挿入するときは、カーソルを移動して、[DIAL]を回します。  
※上下キーを押しても文字を選択できます。
- [CLEAR]を押すと、選択した文字を削除できます。  
[CLEAR]を押しつづけると、連続して削除できます。



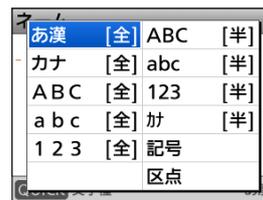
#### ◎ ひらがなの小文字や濁点・半濁点を入力するときは

ひらがなを入力し、[QUICK]を押します。  
十字キー、または[DIAL]を回して一覧から変換する文字(例：び)を選択し、決定キーで確定します。



#### ◎ 入力モードを切り替えるときは

文字を選択していない状態、または入力文字を再度カーソルで選択した状態で、[QUICK]を押します。  
十字キー、または[DIAL]を回して入力モードを選択し、決定キーで確定します。



#### ◎ 漢字を入力するときは

ひらがなを入力し、[QUICK]を押します。  
十字キー、または[DIAL]を回して一覧から変換する漢字(例：夜)を選択し、決定キーで確定します。



#### ◎ カタカナの小文字や濁点・半濁点を入力するときは

カタカナを入力し、[QUICK]を押します。  
変換する文字(例：ァ)を選択し、決定キーで確定します。  
※[QUICK]を押すごとに、文字が切り替わります。



# はじめに

## 入力できる文字について

分類	項目	入力できる文字列	最大文字数	備考
ラジオメモリー	グループネーム	[全][英数][か]	半角16	全角は8文字以内
	ネーム	[全][英数][か]	半角16	全角は8文字以内
メモリーチャンネル	カテゴリーネーム	[全][英数][か]	半角16	全角は8文字以内
	グループネーム	[全][英数][か]	半角16	全角は8文字以内
	ネーム	[全][英数][か]	半角16	全角は8文字以内
プログラムスキャンエッジ	ネーム	[全][英数][か]	半角16	全角は8文字以内
プログラムリンク	プログラムリンクネーム	[全][英数][か]	半角16	全角は8文字以内
SDカード	設定セーブ	[全][英数][か]	半角20	全角は10文字以内 ¥/; * ?' < >   の文字は確定時エラー シフトJIS拡張文字(Ⓜなど)もエラー
	エクスポート	[全][英数][か]	半角20	全角は10文字以内 ¥/; * ?' < >   の文字は確定時エラー シフトJIS拡張文字(Ⓜなど)もエラー

[全] : ひらがな、カタカナ、漢字、英字(大文字/小文字)、数字、欧文記号、和文記号

[英数] : 半角英字(大文字/小文字)、半角数字、欧文記号

[か] : 半角か、和文記号

# はじめに

## 編集のしかた

例：メモリーネームに「アマチュアVHF」を入力する場合

MENU > メモリー管理 > メモリーチャンネル

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「メモリーチャンネル」を選択する
4. 「(カテゴリーなし)」を選択する
5. 編集するメモリーチャンネルがあるグループを選択する(例：86)



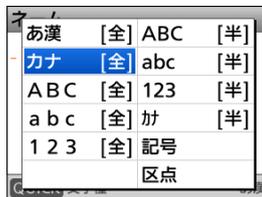
6. 編集するメモリーチャンネルを選択した状態で [QUICK]を押す
7. 「編集」を選択する



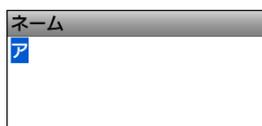
8. 「ネーム」を選択する



9. [QUICK]を押して「カナ[全]」を選択する



10. [DIAL]を回して「ア」を選択する



11. 手順9～手順10を繰り返して入力し、決定キーを押す

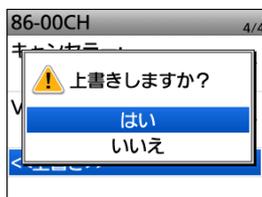


- 入力したメモリーネームが表示されます。

12. 「<<上書き>>」を選択する



13. 「はい」を選択する



- 「ピピッ」と鳴って、メモリーネームが書き込まれます。

# はじめに

## 時刻設定について

本製品は、自動設定機能がないため、下記の項目から時刻設定することをおすすめします。

(MENU > SET > 時間設定 > 日時設定)

※CS-R15(別売品 プログラミングソフトウェア)では、IC-R15の時刻を自動設定できます。

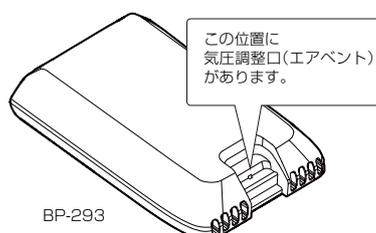
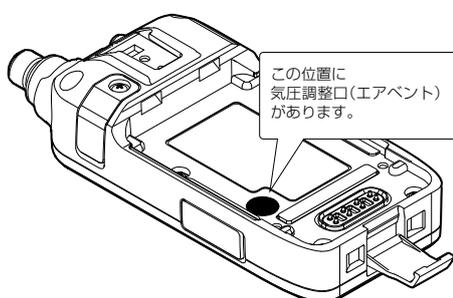
※バッテリーパックを1日以上はずしたあと、装着する場合も設定が必要です。(P.1-3)

## 気圧調整口(エアイベント)について

下図の位置に気圧調整口(エアイベント)があり、この下にある空気を通す素材のシートによって、気圧を調整しています。

※ほかのシールを貼るなどしてふさぐと、気圧調整ができなくなり、使用しているうちに、内蔵スピーカーからの音量が小さくなる現象が発生することがあります。

※エアイベント部のシールに傷がつくと、防水性能を維持できなくなる場合があります。



---

■ バッテリーパックについて .....	1-2
◇ バッテリーパックの使用時間 .....	1-2
■ バッテリーパックの特性と寿命について .....	1-2
◇ バッテリーパックの残量表示 .....	1-2
■ バッテリーパックの膨らみについて .....	1-2
■ 充電のしかた .....	1-3
◇ 正しく充電していただくために .....	1-3
■ USBケーブルを使用した充電のしかた .....	1-4
■ 急速充電のしかた .....	1-5
◇ 急速充電についてのご注意 .....	1-5
■ バッテリーケースについて .....	1-6
◇ 乾電池の交換時期について .....	1-6
◇ バッテリーケースを正しくご使用いただくために .....	1-6

# 1 電源

## ■バッテリーパックについて

### ◇バッテリーパックの使用時間

約13時間使用できます。

使用時間は、下記の条件で受信した場合の目安です。

<条件>

◎AF出力10%歪時：外部スピーカー接続時(8Ω負荷)

### ◇バッテリーパックの残量表示

バッテリーパックの残量に応じて表示が変化します。

※バッテリーケース(別売品:BP-293)使用時は、単3形アルカリ乾電池の残量を表示できません。

単3形アルカリ乾電池の残量に関わらず、電池残量表示は「」のままです。

### 使用後はリサイクルへ



この製品は充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子部分をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <https://www.jbrc.com/>

### ご参考

接触不良を防ぐために、バッテリーパックの電源端子を乾いた布などで定期的に清掃されることをおすすめします。

表示	バッテリーパックの状態
	充電中です。
	十分に容量があります。
	電池が多少消耗していますが、使用できます。
 (緑)	充電する時期です。(短時間の使用は可能)
 (赤)	ただちに充電してください。 ※赤色点灯後しばらくすると、電池残量表示が点滅し、「ローバッテリー」が表示されたあと、すぐに電源が切れます。

## ■バッテリーパックの特性と寿命について

◎バッテリーパックは、消耗品です。

充電できる回数は、300回～500回が目安です。

充電状況を定期的に確認してください。いつもより発熱しているなどバッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止してください。

◎発火や火災の原因になることがありますので、劣化したバッテリーパックは使用しないでください。

◎使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。

◎劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。

◎充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。

本製品の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。

## ■バッテリーパックの膨らみについて

このような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

◎ひんぱんに充電している

◎満充電直後でも再充電している

◎高温な場所で使用・保管している

◎本書で説明する充電方法と異なる

バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

# 1 電源

## ■充電のしかた

バッテリーパックは、出荷時の状態では十分な充電がされていません。ご使用前に必ず充電してください。

※充電するときは、必ず本製品の電源を切ってください。

※充電中は、画面に (充電中の表示)と「充電中…」が表示されます。

※充電が完了すると消灯します。

バッテリーパックは、下記の方法で充電できます。

- USBケーブルを使用して充電する(P.1-4)
- 急速充電器で充電する(P.1-5)

## ◇正しく充電していただくために

### △危険

弊社指定以外の充電器は、使用しないでください。

※バッテリーケース(別売品:BP-293)に市販の単3形充電式電池(ニッカド/ニッケル水素など)を入れても充電できません。

### △注意

バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。

長期間バッテリーパックを保管する場合は、残量表示がの状態になるまで使用し、本製品からバッテリーパックを取りはずして保管してください。

保管期間と温度範囲については、11-3ページをご覧ください。

※バッテリーパックを1日以上はずしたあと、装着する場合は、時間設定をしてください。

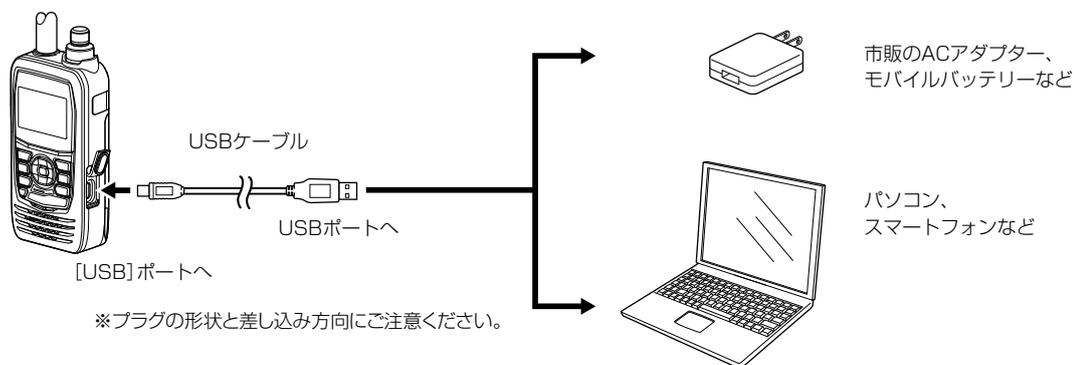
(MENU > SET > 時間設定 > **日時設定**)

# 1 電源

## ■USBケーブルを使用した充電のしかた

本製品をACアダプターやモバイルバッテリー、パソコンなどと市販のUSBケーブル(Type-C)で接続して、バッテリーパックを充電します。

※すべてのUSBケーブルでの接続動作を保証するものではありません。



### ご注意

- ◎バッテリーパックは、必ず装着してください。
- ◎ご使用のUSBケーブルやACアダプター、モバイルバッテリーによっては、正しく充電できないことがあります。また、充電時間は、ご使用の製品やUSBケーブル、USBポートの出力によって異なります。
- ◎外部電源で発生するノイズの影響により、Sメーターが振れたり、雑音が発生したりすることがあります。その場合は、USBケーブルを抜いて、本製品と外部電源の接続を解除してください。
- ◎本製品を外部電源に接続して使用しているあいだは、正しく充電できない場合があります。充電するときは、必ず本製品の電源を切ってください。

### ご参考

- ◎USBケーブルを接続時、満充電になると、充電を停止します。その後、USBケーブルを接続した状態で一定の容量が消費されると、充電を再開します。
- ◎電源ON時は、本製品とパソコンをUSB接続したときの動作を変更できます。(P.7-7)  
(MENU > SET > 機能設定 > **USB接続**)

# 1 電源

## ■急速充電のしかた

急速充電器(別売品:BC-223)を使用して、バッテリーパック単体、または本製品に装着した状態で急速充電ができます。

※充電中、ランプは橙色で点灯し、充電が完了すると、緑色に変わります。

## ◇急速充電についてのご注意

### △危険

弊社指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。

◎バッテリーパックを本製品に装着して充電するときは、必ず本製品の電源を切ってください。(右図参照)

バッテリーの消耗により本製品の電源が切れないときは、バッテリーパック単体で充電してください。

また、ご家庭のコンセントの電圧(AC100V)が極端に低くなったときは、正常に充電できないことがあります。

◎バッテリーパックは継ぎ足し充電ができます。

※BC-223で充電する場合、電池容量の約90%になると、充電が完了(充電ランプ：緑点灯)します。

※充電が完了した直後にBC-223からバッテリーパックの抜き差しを繰り返すなどして再充電をしないでください。

◎BC-223を使用しないときは、ACコンセントからACアダプターを取りはずしてください。

◎急速充電中は、USBケーブルを接続しないでください。USBケーブルを併用した場合の動作については、保証対象外になります。

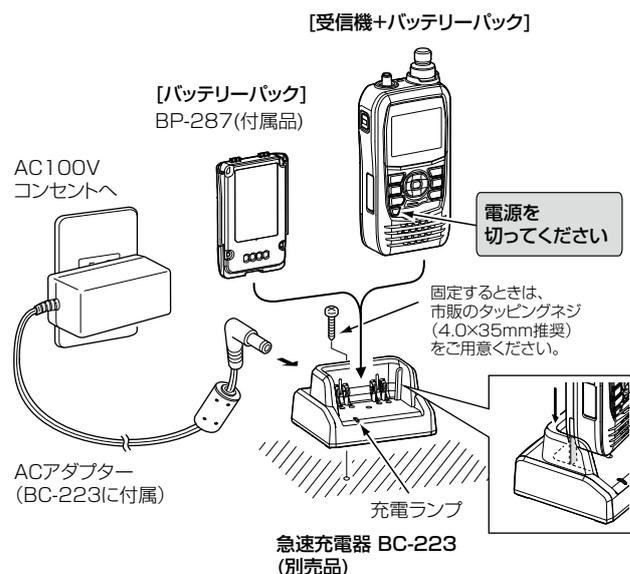
◎充電完了後、バッテリーパックの電圧が低下すると自動的に充電を再開します。

※使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。

※充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

※直射日光のあたる場所や炎天下の車内など、高温になる場所での使用、放置はしないでください。

## ◎充電時間：約4時間



### ご参考

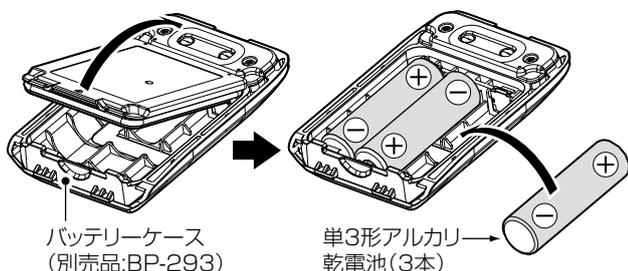
充電器のランプが橙色で点滅、または橙色/緑色で交互に点滅するときは、下記をご確認ください。

- バッテリーパックが正しく差し込まれていない  
→バッテリーパックを差し込みなおす
- 15℃～40℃以外の環境で充電している  
→15℃～40℃の環境で充電する
- 各端子(充電端子や電源端子)の接触不良  
→ゴミやホコリが各端子に付着していないことを確認する

# 1 電源

## ■バッテリーケースについて

バッテリーケース(別売品:BP-293)のフタを開け、単3形アルカリ乾電池(3本)を入れます。



## ◇乾電池の交換時期について

アルカリ乾電池が消耗すると、「ローバッテリー」が表示されたあと、すぐに電源が切れます。

このようなときは、3本とも新しい単3形アルカリ乾電池と交換してください。

※バッテリーケース使用時は、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

アルカリ乾電池の残量に関わらず、電池残量表示は「」のままです。

## ◇バッテリーケースを正しくご使用いただくために

### △危険

バッテリーケース(別売品:BP-293)は、単3形アルカリ乾電池専用です。

マンガン乾電池や単3形の充電式電池は、使用しないでください。

破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

### △注意

◎バッテリーケースを使用しないときは、バッテリーケースからアルカリ乾電池を取りはずして保管してください。

◎バッテリーケース使用時は、USBケーブルを接続しないでください。

USBケーブルを併用した場合の動作については、保証対象外になります。

◎単3形アルカリ乾電池の極性(⊕(プラス側)と⊖(マイナス側))を間違えないように入れてください。

◎バッテリーケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると電源が切れます。

◎バッテリーケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

◎アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

### ご参考

◎アルカリ乾電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。

◎寒冷地でご使用になる場合は、バッテリーケースの部分を十分に保温しながらご使用ください。

ご使用になる microSD カードの取り付けや注意事項などは、簡易マニュアル6章をご覧ください。

- microSDカードに保存できるデータについて ..... 2-2
- 設定データを microSD カードに保存する ..... 2-2
- 設定ファイル名を変更して保存するには ..... 2-3
- microSDカードに保存した設定データを本製品に読み込むには 2-4
- microSDカードのデータをパソコンにバックアップする ..... 2-5
  - ◇ microSDカードの階層について ..... 2-5
  - ◇ パソコンにデータをバックアップする ..... 2-6
- CSVファイルをインポート/エクスポートするには ..... 2-7
  - ◇ インポートのしかた ..... 2-7
  - ◇ エクスポートのしかた ..... 2-8
- SDカードモードについて ..... 2-9
- microSDカードの空き容量、録音時間を確認する ..... 2-10

## 2 microSDカードの使いかた

### ■microSDカードに保存できるデータについて

保存できるデータは次のとおりです。

- ◎本製品の設定データ(icf形式)
- ◎メモリーチャンネルの設定データ(csv形式)
- ◎録音データ(wav形式)
- ◎スクリーンキャプチャーデータ(png/bmp形式)
- ◎オープニング画像機能で使用する画像データ(bmp形式)
- ◎ラジオメモリーの設定データ(csv形式)

### ■設定データをmicroSDカードに保存する

本製品に設定したメモリーチャンネル、MENU画面の各設定項目などをmicroSDカードに保存できます。

設定データをmicroSDカードに保存しておく、本製品をリセットして設定を初期化したときなどに、元の状態に戻せるので便利です。

設定データは、新規ファイルに保存するか、すでに作成したファイルに上書き保存ができます。

#### 【新規ファイルに保存する場合】

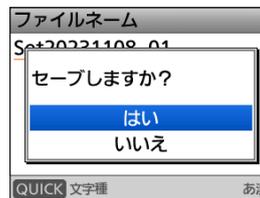
MENU > SET > SDカード > 設定セーブ

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「SDカード」を選択する
4. 「設定セーブ」を選択する
5. 「《新規ファイル》」を選択する
  - ファイル名は、Setにつづいて、作成する年(Y)、月(M)、日(D)、作成番号の順に「SetYYYYMMDD\_作成番号」となります。
  - ※ファイル名を変更する場合は、「設定ファイル名を変更して保存するには」をご覧ください。(P.2-3)



6. 決定キーを押す

7. 「はい」を選択する



- 設定データを保存します。
- 保存中、進行状況が表示され、保存が完了すると、SDカード画面が表示されます。

8. [MENU]を短く押す
  - MENU画面が解除されます。

#### 【上書き保存する場合】

すでに作成したファイルに設定データを上書き保存する場合は、上記の手順4で、上書きするファイルを選択します。

#### ご参考

設定データは、CS-R15(別売品プログラミングソフトウェア)で使用しているファイル形式(ICFファイル)でmicroSDカードに保存されます。microSDカードに保存した設定データをパソコンに取り込んで、CS-R15で編集することもできます。

## 2 microSDカードの使いかた

### ■設定ファイル名を変更して保存するには

MENU > SET > SDカード > 設定セーブ

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「SDカード」を選択する
4. 「設定セーブ」を選択する
5. 「《新規ファイル》」を選択する
6. [CLEAR]を押して、入力されている文字を削除する



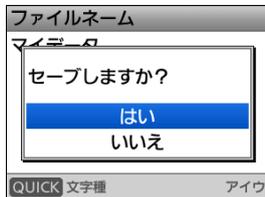
※[CLEAR]を押しつづけると、連続して削除できます。

7. 設定ファイル名を入力して、決定キーを押す



※入力方法は、ivページをご覧ください。

8. 「はい」を選択する



- 設定データを保存します。
- 保存中、進行状況が表示され、保存が完了すると、SDカード画面が表示されます。

9. [MENU]を押す

- MENU画面が解除されます。

## 2 microSDカードの使いかた

### ■microSDカードに保存した設定データを本製品に読み込むには

microSDカードに保存したメモリーチャンネル、MENU画面の各設定項目などを本製品に設定できます。メモリーチャンネルなどを、ほかの本製品にコピーして使用するときなどに便利な機能です。

設定データを本製品に読み込ませる前に、現在の設定データをmicroSDカードに保存しておくことをおすすめします。

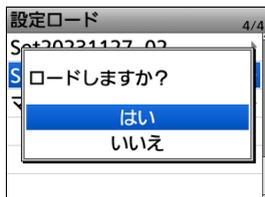
例: Set20231206\_01のすべての設定データを読み込む場合

MENU > SET > SDカード > 設定ロード

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「SDカード」を選択する
4. 「設定ロード」を選択する
5. 本製品に読み込む設定データを選択する



6. 「はい」を選択する



- ファイルチェック後、設定データの読み込みを開始します。

※読み込み中、進行状況が表示されます。

※読み込みが完了すると、ロード完了画面が表示されます。

7. 電源を入れなおす

※読み込んだデータを有効にするため、電源を入れなおしてください。

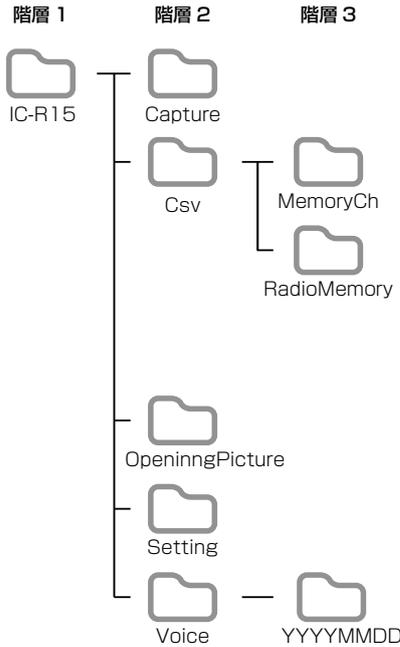
## 2 microSDカードの使いかた

### ■microSDカードのデータをパソコンにバックアップする

microSDカードに保存したデータを、パソコンにバックアップしておくこと、microSDカード内のデータを誤って削除したときでもデータを復元できます。

### ◇microSDカードの階層について

microSDカードのフォルダ階層は下図のようになっています。



フォルダ名	説明	拡張子
IC-R15	本製品で作成されるフォルダは、すべてIC-R15フォルダ内に作成される	
Capture	画面のスクリーンキャプチャーデータが保存される	bmp/ png
Csv	メモリーチャンネルなどのインポートデータフォルダが格納される	csv
MemoryCh	メモリーチャンネルのインポート用データを格納するためのフォルダ	csv
Radio Memory	ラジオメモリーのインポート用データを格納するためのフォルダ	csv
Opening Picture	電源を入れたときに表示させる画像を保存するフォルダ	bmp
Setting	本製品の設定データが格納される	icf
Voice	録音データが格納される	—
YYYYYMMDD	録音した内容が格納される ※フォルダ名は、作成された年(Y)、月(M)、日(D)の順に「YYYYYMMDD」となります。	wav

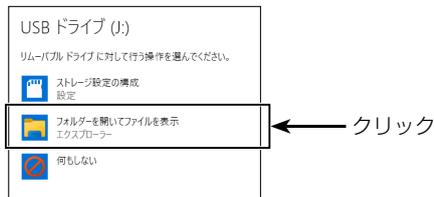
## 2 microSDカードの使いかた

### ■microSDカードのデータをパソコンにバックアップする

#### ◇パソコンにデータをバックアップする

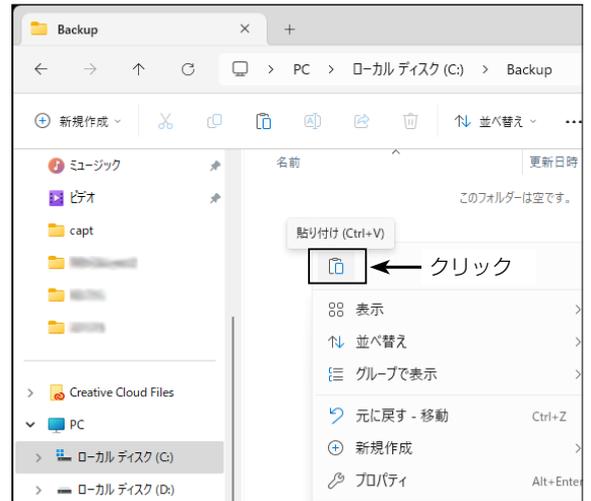
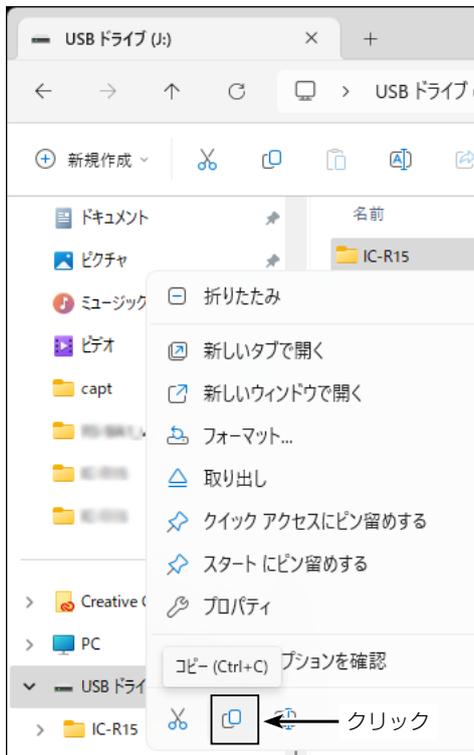
Windows 11を例に説明します。

1. パソコンのSDカードスロットが搭載されている場合は、スロットにmicroSDカードを取り付ける  
※パソコンにSDカードスロットが搭載されていない場合は、microSDカードを読み込むためのメモリーカードリーダー(市販品)をパソコンに接続し、メモリーカードリーダーにmicroSDカードを取り付けます。
2. 下記のような画面が表示されたら、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックする
3. [USB ドライブ]にマウスポインターをあわせて、右クリックする
4. コピーアイコンをクリックする
5. データの保存先フォルダー内で右クリックし、貼り付けアイコンをクリックする  
• microSDカード内のデータが、パソコンにコピーされます。  
(例：Cドライブ内の「Backup」フォルダーにコピーする場合)



• 保存したIC-R15のフォルダーが表示されます。

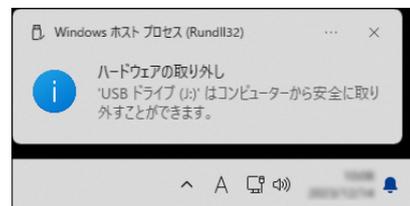
3. [USB ドライブ]にマウスポインターをあわせて、右クリックする
4. コピーアイコンをクリックする



6. microSDカードをパソコンから取りはずすときは、タスクトレイのmicroSDカードに該当するアイコン(下の画面では「[i]」アイコン)をクリックする  
※画面は、メモリーカードリーダーを取り付けたときの例です。



7. 「ハードウェアの取り外し」が表示されてから、microSDカードをパソコンから取りはずす  
※画面は、メモリーカードリーダーを取り付けたときの例です。



#### ご参考

データ通信対応のUSBケーブルで本製品とパソコンを接続し、MENU画面で「USB接続」を「SDカードモード」に設定すると、microSDカードを抜き差しせずにパソコンからSDカードにアクセスできます。(P.7-7)

(MENU > SET > 機能設定 > USB接続)

## 2 microSDカードの使いかた

### ■CSVファイルをインポート/エクスポートするには

CSVファイルをmicroSDカードから読み込ませたり(インポート)、microSDカードに保存したり(エクスポート)できます。

対象のデータは、下記になります。

◎メモリーチャンネル

◎ラジオメモリー

これらは個別にインポートとエクスポートができます。

#### ご参考

CSVファイルは、本製品に登録されている一部の設定データを読み込んだり、書き込んだりするときを使用するファイルです。

本製品からエクスポートしたCSVファイルは、パソコンに読み込ませて、プログラミングソフトウェアで編集することもできます。

### ◇インポートのしかた

CSVファイルの本製品に読み込ませる前に、現在の内容をmicroSDカードに保存しておくことをおすすめします。

例：メモリーチャンネルをインポートする

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート > インポート

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「SDカード」を選択する
4. 「インポート/エクスポート」を選択する
5. 「インポート」を選択する
6. 「メモリーチャンネル」を選択する

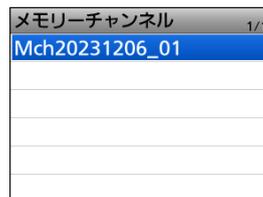


7. インポート先のグループを選択する

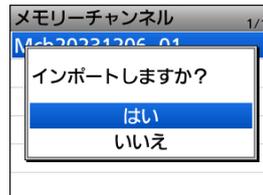
#### ご注意

「すべて」を選択すると、オートメモリーライトチャンネルグループ(オートMW CH)とスキップチャンネルグループ(SKIP CH)以外のメモリーチャンネルがすべて消去されたあと、メモリーチャンネルがインポートされます。

8. 本製品に読み込むCSVファイルを選択する



9. 「はい」を選択する



- インポートを開始します。

※読み込みが完了すると、「インポート完了」画面が表示されます。

10. 電源を入れなおす

※読み込んだCSVファイルを有効にするため、電源を入れなおしてください。

#### ご注意

ファイル名が拡張子を除く半角21文字(全角11文字)以上のものは表示されません。

インポートするファイルが表示されない場合は、ファイル名を半角20文字(全角10文字)以内に変更してからインポートしてください。

※CS-R15(別売品プログラミングソフトウェア)で、本製品にインポートするためのCSVファイルを書き出す場合も半角20文字(全角10文字)以内になるようにファイル名を設定してください。

## 2 microSDカードの使いかた

■CSVファイルをインポート/エクスポートするには

### ◇エクスポートのしかた

メモリーチャンネル、ラジオメモリーをエクスポートできます。

### 【新規ファイルに保存する場合】

例：メモリーチャンネルをエクスポートする

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート  
> エクスポート

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「SDカード」を選択する
4. 「インポート/エクスポート」を選択する
5. 「エクスポート」を選択する
6. 「メモリーチャンネル」を選択する
7. エクスポートするグループを選択する  
※すべてのグループをエクスポートするときは、「すべて」を選択します。
8. 「<<新規ファイル>>」項目を選択する

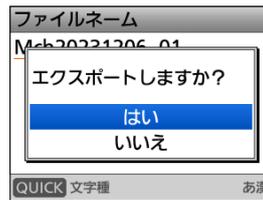


- ファイルネーム画面が表示されます。
- ※ファイル名は、Mch\*につづいて、作成する年(Y)、月(M)、日(D)、作成番号の順に「MchYYYYMMDD\_作成番号」となります。
- ★ラジオメモリーの場合は「Radio」になります。
- ※入力方法は、ivページをご覧ください。

9. 決定キーを押す



10. 「はい」を選択する



- CSVファイルを保存します。
- ※保存中、進行状況が表示され、保存が完了すると、「エクスポート」画面が表示されます。

11. [MENU]を押す

- MENU画面が解除されます。

### 【上書き保存するには】

設定データを既存のファイルに上書き保存するときは、手順8で上書きするファイルを選択します。

## 2 microSDカードの使いかた

### ■SDカードモードについて

USB接続設定をSDカードモードに変更することで、本製品に取り付けたmicroSDカード(IC-R15フォルダー)の内容を本製品とUSBケーブルで接続されたパソコンで認識できるようになります。

そのため、microSDカードを着脱せずに、microSDカードに保存した設定データや録音データなどを、パソコンにバックアップしたり、ファームウェアのデータをmicroSDカードに保存したりできます。

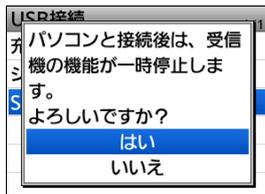
#### MENU > SET > 機能設定 > USB接続

1. 本製品とパソコンをUSBケーブルで接続する  
※USBケーブルは、データ通信対応製品をお使いください。
2. [MENU]を短く押す
3. 「SET」を選択する
4. 「機能設定」を選択する
5. 「USB接続」を選択する
6. 「SDカードモード」を選択する



- パソコンとUSBケーブル(市販品)で接続すると、下記の説明が表示されます。

7. 「はい」を選択する



#### ご注意

SDカードモードの本製品をUSBケーブルでパソコンと接続する前に、市販のmicroSDカードを取り付けておく必要があります。

※microSDカードを装着していない場合は、電源を切った状態でmicroSDカードを取り付けてから、USBケーブルを接続しなおしてください。

#### ご参考

◎SDカードモード中は、受信機としての機能が停止します。

◎SDカードモード移行時の動作

- 録音を停止する
- Bluetooth接続を切断する
- オートパワーオフを無効にする

#### SDカードモードを終了するとき

本書では、Microsoft Windows 11を例に説明しています。

1. タスクトレイの本製品に該当するアイコン「」をクリックする
2. 「ハードウェアの取り外し」が表示されてから、USBケーブルをパソコンから取りはずす

## 2 microSDカードの使いかた

### ■microSDカードの空き容量、録音時間を確認する

MENU > SET > SDカード > SDカード情報

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「SDカード」を選択する
4. 「SDカード情報」を選択する



- microSDカードの空き容量と録音時間が表示されます。
5. [MENU]を押す
    - MENU画面が解除されます。

説明に使用しているメモリーの  
内容は、お客様の受信機にプリ  
セットされた内容と異なる場合  
があります。  
あらかじめご了承ください。

- メモリーチャンネルについて ..... 3-2
  - ◇ 1つのメモリーチャンネルが記憶できる内容 ..... 3-2
- メモリー管理画面について ..... 3-2
  - ◇ メモリー管理画面の階層イメージ ..... 3-2
  - ◇ メモリー管理画面へのアクセス方法 ..... 3-3
- メモリーチャンネルの呼び出しかた ..... 3-3
- メモリーの書き込みかた ..... 3-4
  - ◇ メモリーチャンネルを指定して書き込む ..... 3-4
  - ◇ 選択されているメモリーチャンネルに上書きする ..... 3-5
- メモリーの内容をVFOに転送して使う ..... 3-5
- メモリー内容をほかのチャンネルへコピーする ..... 3-6
- メモリー内容をほかのカテゴリーかグループに移動する ..... 3-7
- 空きチャンネルを挿入する ..... 3-8
- メモリーネームの入れかた ..... 3-9
- メモリーネームの表示について ..... 3-10
  - ◇ 表示タイプの変更 ..... 3-10
- メモリークリア(消去)のしかた ..... 3-10
  - ◇ メモリー内容を消去する ..... 3-10
- カテゴリーについて ..... 3-11
  - ◇ カテゴリーの追加 ..... 3-11
  - ◇ カテゴリーの削除 ..... 3-12
  - ◇ カテゴリーのアイコン一覧 ..... 3-12
- ラジオメモリー ..... 3-13
  - ◇ ラジオメモリーについて ..... 3-13
  - ◇ ラジオメモリーの新規登録 ..... 3-13
  - ◇ ラジオメモリーの削除 ..... 3-15
  - ◇ ラジオメモリーの編集 ..... 3-15
  - ◇ ラジオメモリーの移動 ..... 3-16

### 3 メモリーチャンネル

#### ■メモリーチャンネルについて

よく使用する周波数や受信情報などをあらかじめメモリーチャンネルに記憶させておき、すばやく呼び出して受信できます。

通常のメモリーチャンネルとして、最大100グループまで作成でき、1グループあたり最大100CH、合計2000CHまで記憶できます。

#### ◇1つのメモリーチャンネルが記憶できる内容

すべてのメモリーチャンネルには下記の内容が記憶されます。

- ネーム
- 周波数
- チューニングステップ(TS)
- 受信モード
- デュプレックス(DUP)
- オフセット周波数
- AFフィルター
- お気に入り
- スキップ
- Tone選択\*
- TSQL周波数\*
- DTCSのコードと極性\*
- キャンセラー\*
- TRAIN1周波数\*
- VSC\*

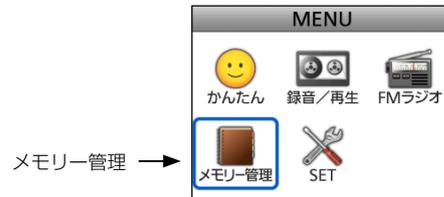
★FM/FM-Nのみ

#### ■メモリー管理画面について

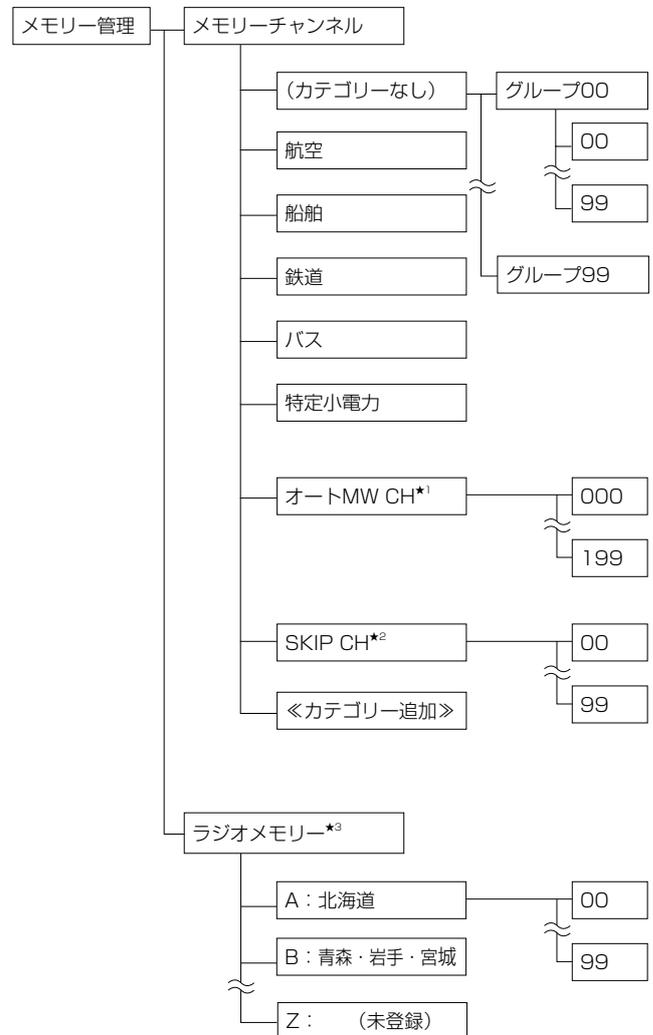
メモリーチャンネルの登録やネーム編集、カテゴリーやグループの割り当てなどが簡単にできます。

◎メモリーチャンネル、グループ、カテゴリーの一覧表示、登録内容の確認

◎メモリーチャンネルのコピーや移動、チャンネルの挿入や消去



#### ◇メモリー管理画面の階層イメージ



#### ご注意

メモリーの内容は、静電気や電氣的雑音などで消失することがあります。

また、故障や修理の際にも消失する場合があります。メモリーの内容をmicroSDカード、またはパソコンに保存することをおすすめします。

※microSDカードは、市販品を別途ご用意ください。

※パソコンに保存するときは、CS-R15(別売品プログラミングソフトウェア)もお使いいただけます。CS-R15の取扱説明書をよくお読みいただき、手順にしたがってUSBケーブルを接続してください。

★1 オートMWスキャン中に受信した周波数が、自動的に書きこまれます。(P.4-3)

★2 VFOスキャン中に信号を受信して一時停止したときに[SKIP]を押して「SKIP CHグループ登録」を選択すると、その周波数が書き込まれます。(P.4-7)

★3 ラジオメモリーについて(P.3-13)



### 3 メモリーチャンネル

#### ■メモリーの書き込みかた

VFOモードで周波数を設定したあと、書き込み操作をします。  
新規書き込みと選択中のCHに上書きする方法があります。

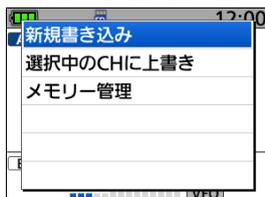
#### ◇メモリーチャンネルを指定して書き込む

例：145.800MHz/FM(Auto)を(カテゴリーなし)のグループ86の02チャンネルに書き込む

1. [V/MHz]を押して、VFOモードにする
2. 周波数を「145.800MHz」にする



3. [MW]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す
4. 「新規書き込み」を選択する



5. [QUICK]を短く押したあと、「カテゴリー/グループ」を選択する



6. 「(カテゴリーなし)」を選択する

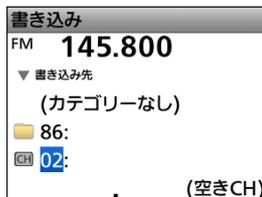


7. 「86」(グループ)を選択する

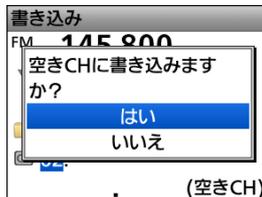


- 書き込むグループがグループ86に設定されます。

8. 書き込むチャンネルを「02」に設定する



9. 決定キーを押したあと、「はい」を選択する



- メモリー内容を書き込み、VFOモードに戻ります。

#### ご参考

手順8で[QUICK]を短く押して表示される画面から、下記を選択できます。

- |            |   |
|------------|---|
| 名前編集       | ： 名前編集画面に移動します。<br>(P.3-9)  |
| お気に入り登録    | ： お気に入りに登録します。<br>(P.8-2)   |
| SKIP設定     | ： SKIP設定画面を表示します。   |
| カテゴリー/グループ | ： 書き込むカテゴリーやグループを変更できます。  |
| 《書き込み》     | ： 選択中のチャンネルに書き込みます。   |
| 《挿入書き込み》   | ： 選択しているチャンネルの上に新たなチャンネルを挿入して書き込みます。以降のチャンネル番号は、繰り下がります。<br>※すでに最大数が登録されている場合は、確認画面が表示されます。 |

### 3 メモリーチャンネル

#### ■メモリーの書き込みかた

##### ◇選択されているメモリーチャンネルに上書きする

書き込み先のメモリーチャンネルを選択してから、VFO周波数を書き込みます。

例：145.000MHz/FM(Auto)を航空カテゴリーのグループ00の05チャンネルに上書きする

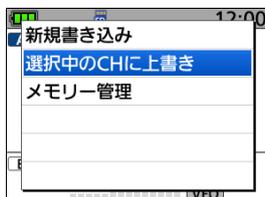
1. [MR]を短く押して、メモリーモードにする
2. 上書き先のメモリーチャンネルを選択する



3. [V/MHz]を押して、VFOモードにする
4. 周波数を「145.000MHz」にする

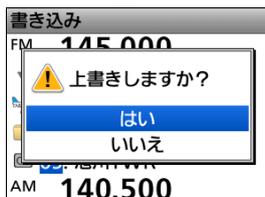


5. [MW]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す
6. 「選択中のCHに上書き」を選択する



• 書き込み先の内容が表示されます。

7. [MR]を押す
8. 「はい」を選択する



• 「ピピッ」と鳴って、メモリーに書き込まれ、VFOモードに戻ります。

#### ■メモリーの内容をVFOに転送して使う

使用しているメモリーチャンネルの周辺に周波数を移して、受信する場合などに便利な機能です。

例：航空カテゴリーのグループ00の00チャンネルの内容をVFOに転送する

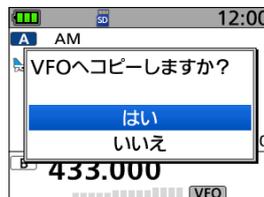
1. [MR]を短く押して、メモリーモードにする
2. 転送するメモリーチャンネルを選択する



3. [MW]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す
4. 「VFOへコピー」を選択する



5. 「はい」を選択する



• 「ピピッ」と鳴って、メモリーチャンネルの内容がVFOモードに転送され、VFOモードに戻ります。

### 3 メモリーチャンネル

#### ■メモリー内容をほかのチャンネルへコピーする

メモリーチャンネルの内容をほかのチャンネルにコピーできます。

例：航空カテゴリーのグループ00の05チャンネルの内容  
を同じグループの60チャンネルにコピーする

MENU > メモリー管理 > メモリーチャンネル

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「メモリーチャンネル」を選択する
4. カテゴリーを選択する
5. グループを選択する
6. コピー元のチャンネルを選択した状態で、[QUICK]を押す

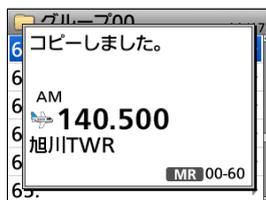


7. 「コピー」を選択する



• 画面左上に「コピー先」が表示されます。

8. コピー先のチャンネルを選択する



• 「ピピッ」と鳴って、メモリー内容がコピーされます。  
※コピー先のチャンネルにメモリーが書き込まれている場合は、上書きの確認画面が表示されます。

別のカテゴリーまたはグループにコピーするには  
手順7で、「コピー」を選択したあとに、[QUICK]を短く  
押して「カテゴリー/グループ」を選択すると、ほかのカ  
テゴリー、またはグループにコピー先を変更できます。



### 3 メモリーチャンネル

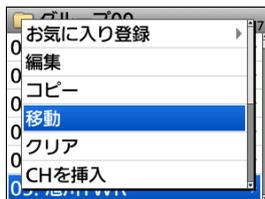
#### ■メモリー内容をほかのカテゴリーかグループに移動する

メモリーチャンネルの内容をほかのカテゴリー、またはグループに移動できます。

例：航空カテゴリーにあるグループ00の05チャンネルの内容を、同じカテゴリー内にあるグループ04の08チャンネルに移動する

MENU > メモリー管理 > メモリーチャンネル

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「メモリーチャンネル」を選択する
4. カテゴリーを選択する
5. グループを選択する
6. チャンネルを選択した状態で、[QUICK]を短く押す
7. 「移動」を選択する



• 画面左上に「挿入先」が表示されます。

8. [QUICK]を短く押す
9. 「カテゴリー/グループ」を選択する



• 画面左上に「挿入先カテゴリー」が表示されます。

10. 移動先のカテゴリーを選択する



※別のカテゴリーに移動しない場合は、移動するチャンネルと同じカテゴリーを選択します。

11. 移動先のグループを選択する



12. 移動するチャンネルを選択する



- 「ピピッ」と鳴って、メモリー内容が移動されます。
- ※選択したチャンネル以降は、チャンネル番号が繰り下がります。
- ※移動をキャンセルする場合は、[CLEAR]を数回押してください。

同じグループ内で並べ替えるには  
手順7のあとに手順12の操作をすると、同じグループ内のチャンネルを並べ替えできます。

### 3 メモリーチャンネル

#### ■空きチャンネルを挿入する

登録済みのメモリーチャンネルのあいだに空きチャンネルを挿入します。

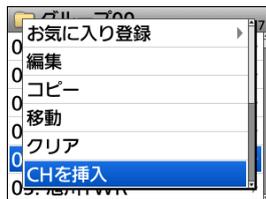
例：航空カテゴリーにあるグループ00の03チャンネルと04チャンネルのあいだに空きチャンネルを挿入する

MENU > メモリー管理 > メモリーチャンネル

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「メモリーチャンネル」を選択する
4. カテゴリーを選択する
5. グループを選択する
6. 04チャンネルを選択した状態で、[QUICK]を押す



7. 「CHを挿入」を選択する



- 「ピピッ」と鳴って、空きチャンネルが挿入されます。
- ※99チャンネルにメモリーが書き込まれている場合は、削除の確認画面が表示されます。
- ※選択したチャンネル以降は、チャンネル番号が繰り下がります。

### 3 メモリーチャンネル

#### ■メモリーネームの入れかた

メモリーに書き込んでいるチャンネルやグループに、全角8文字(半角16文字)以内で名前(ネーム)を入力できます。

※メモリーネームと同様に、プログラムスキャンエッジ(P.7-4)、プログラムリンク(P.7-4)にもネームを入力できます。

MENU > メモリー管理 > メモリーチャンネル

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「メモリーチャンネル」を選択する
4. カテゴリーを選択する
5. グループを選択する
6. 編集するメモリーチャンネルを選択し、[QUICK]を押す
7. 「編集」を選択する



8. 「ネーム」を選択する



- ネーム画面が表示され、1桁目が点滅します。

9. メモリーネームを入力し、決定キーを押す

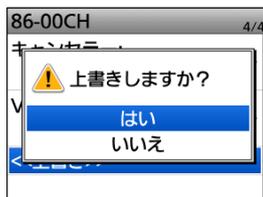


- 入力したメモリーネームが表示されます。  
※入力方法は、ivページをご覧ください。

10. 「<<上書き>>」を選択する



11. 「はい」を選択する



- 「ピピッ」と鳴って、メモリーチャンネルの一覧に戻ります。

カテゴリー、またはグループネームを入力するには  
カテゴリー、またはグループを選択している状態で  
[QUICK]を押し、「カテゴリーネーム編集」、または「グループネーム編集」を選択すると、ネーム編集画面を表示します。

### 3 メモリーチャンネル

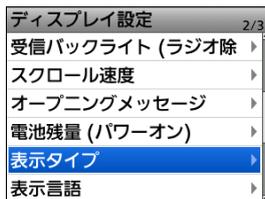
#### ■メモリーネームの表示について

##### ◇表示タイプの変更

例：デュアル表示の場合

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示タイプ

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「ディスプレイ設定」を選択する
4. 「表示タイプ」を選択する



5. 表示タイプを選択する



周波数主体



ネーム主体

#### ■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったメモリーチャンネルを消去できます。

##### ◇メモリー内容を消去する

例：航空カテゴリーのグループ01の01チャンネルを消去する

MENU > メモリー管理 > メモリーチャンネル

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「メモリーチャンネル」を選択する
4. カテゴリーを選択する
5. グループを選択する(01)
6. チャンネル「01」を選択する

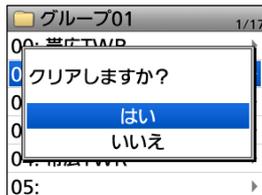


7. [QUICK]を押す
8. 「クリア」を選択する



- 確認画面が表示されます。

9. 「はい」を選択する



- 「ピピッ」と鳴って、メモリーチャンネルの一覧に戻ります。
- 選択したチャンネルは、空きチャンネルになります。

#### ご注意

消去した内容は復元できません。

#### 選択したチャンネル自体を削除するには

手順8で「削除してCHを詰める」を選択すると、選択したチャンネルが削除されます。

※選択したチャンネル以降はチャンネル番号が繰り上がります。



## 3 メモリーチャンネル

### ■カテゴリーについて

新たにカテゴリーを追加したり、削除したりできます。

#### ◇カテゴリーの追加

例：「アマチュア無線」カテゴリーを追加する

#### 1. カテゴリーを追加する

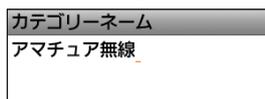
MENU > メモリー管理 > メモリーチャンネル

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「メモリーチャンネル」を選択する
4. «カテゴリー追加»を選択する



#### 2. ネームを編集する

1. 「ネーム編集」を選択する
2. 「アマチュア無線」を入力し、決定キーを押す



- 入力したカテゴリーネームが表示されます。  
※入力方法は、ivページをご覧ください。

#### 3. カテゴリーのアイコンを選択する

1. 「アイコン選択」を選択する



2. 十字キーでアイコンを選択する  
※アイコン一覧は、3-12ページをご覧ください。



#### 4. カテゴリーに入れるグループを選択する

1. 「グループ選択」を選択する



- カテゴリーの割り当てがされていないグループが一覧表示されます。

2. 決定キーを押して所属させたいグループにチェックを入れる



3. [QUICK]を押して、「決定」を選択する



- 追加したカテゴリーに選択したグループが登録されます。  
※編集をキャンセルする場合は、[CLEAR]を数回押してください。

4. 「«保存»」を選択する



- カテゴリー一覧に作成したカテゴリーが表示されます。

既存のカテゴリーの名前やアイコンを変更するには  
すでに登録されているカテゴリーの名前やアイコンを変更する場合は、カテゴリーを選択した状態で、[QUICK]を押して表示される項目から編集できます。

### 3 メモリーチャンネル

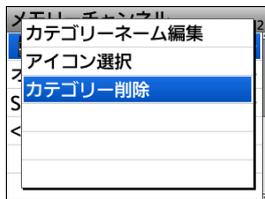
#### ■カテゴリーについて

#### ◇カテゴリーの削除

例：「アマチュア無線」カテゴリーを削除する

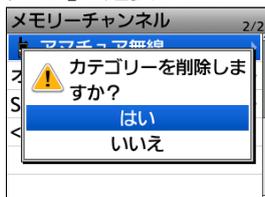
MENU > メモリー管理 > メモリーチャンネル

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「メモリーチャンネル」を選択する
4. 「アマチュア無線」カテゴリーを選択した状態にする  
※決定キーは押さないでください。
5. [QUICK]を押す
6. 「カテゴリー削除」を選択する



• 「カテゴリーを削除しますか？」が表示されます。

7. 「はい」を選択する



• 選択したカテゴリーが削除されます。

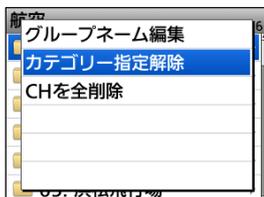
#### 既存のカテゴリーにグループを追加するには

すでに登録されているカテゴリーにグループを追加する場合は、グループ一覧の一番下にある「<<グループ追加>>」を選択し、決定キーで追加するグループを選択します。



#### 既存のカテゴリーから任意のグループをはずすには

すでに登録されているカテゴリーから任意のグループをはずす場合は、グループを選択した状態で[QUICK]を押し、「カテゴリー指定解除」を選択します。



#### ◇カテゴリーのアイコン一覧

カテゴリーのアイコンとその名称一覧です。

※CS-R15(別売品プログラミングソフト)で、名称から設定できます。

	小型飛行機		ショッピングセンター
	旅客機		消防車
	気球		消防署
	戦闘機		救急車
	輸送機		医療
	管制塔		病院
	離陸		バス
	着陸		ビル
	レーダー管制		八木アンテナ
	ヘリコプター		テレビ
	トラック		警備員
	作業員		レジャー
	FSC		ジープ
	ATIS		基地
	電車		工場
	電気機関車		乗用車
	レジャーボート		電話
	大型船		ワイヤレスマイク
	特小無線機		固定無線機
	レストラン		ハンディ無線機

## 3 メモリーチャンネル

### ■ラジオメモリー

#### ◇ラジオメモリーについて

ラジオメモリーは、A～Zの26グループあり、1グループあたり最大50件、ラジオメモリー全体で最大500件のラジオチャンネルを登録できます。

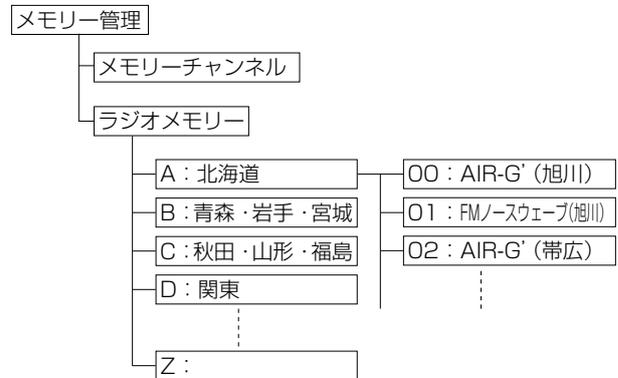
ラジオメモリーには、あらかじめ各地域の放送局がプリセットされているため、聴きたい放送局をラジオメモリーから探せます。

#### ラジオメモリーのインポート/エクスポート

ラジオメモリーをCSVフォーマットでmicroSDカードから読み込ませたり(インポート)、microSDカードに保存したり(エクスポート)できます。

インポート、およびエクスポートについては、2-7ページをご覧ください。

#### ◎ラジオメモリーの階層イメージ



#### ◇ラジオメモリーの新規登録

放送局をラジオメモリーに追加できます。

#### 1. ラジオメモリーを追加し、編集画面に入る

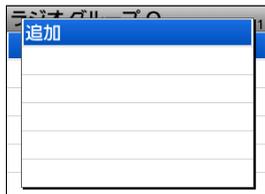
MENU > メモリー管理 > ラジオメモリー

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「ラジオメモリー」を選択する  
すべてのラジオメモリーグループが表示されます。
4. 空いているグループを選択する(例：O)



※ラジオメモリーが1件も登録されていないときは、「-未登録-」が表示されます。

5. [QUICK]を押す
6. 「追加」を選択する



- 「ラジオメモリー編集」画面が表示されます。

#### 2. ラジオメモリー名前を入力する

1. 「名前」を選択する



2. ラジオメモリー名前を入力して、決定キーを押す(例：NHK-FM大阪)



※入力方法は、ivページをご覧ください。

#### ご参考

- ◎編集の途中で、登録するグループを変更するには、「グループ：」を選択し、表示される画面でグループを選択します。
- ◎「1. ラジオメモリーを追加し、編集画面に入る」の手順4でグループを選択中に、[QUICK]を押して「名前編集」を選択すると、グループ名を編集できます。

### 3 メモリーチャンネル

#### ■ラジオメモリー

#### ◇ラジオメモリーの新規登録

#### 3. 周波数を入力する

1. 「周波数」を選択する



2. [DIAL]を回して周波数を設定する(例：88.9MHz)



※設定範囲は76.0MHz～108.0MHzです。

3. 決定キーを押す

#### 4. SKIPを設定する

1. 「SKIP」を選択する



2. 「OFF」、または「SKIP」を選択する



※「SKIP」を選択すると、ラジオメモリーモード時に表示されなくなります。

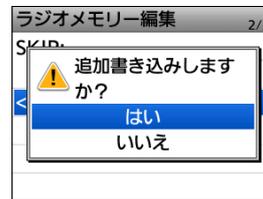
#### 5. ラジオメモリー内容を書き込む

1. 「<<追加書き込み>>」を選択する



※すでに登録されているラジオメモリーを編集した場合は、「<<上書き>>」を選択します。

2. 「はい」を選択する



• ラジオメモリーに追加登録され、ラジオグループ画面に戻ります。

**編集を取り消すには**  
編集を取り消す場合は、[CLEAR]を押すとキャンセル確認画面が表示されます。  
「はい」を選択すると、入力した内容を削除して、ラジオグループ画面に戻ります。

### 3 メモリーチャンネル

#### ■ラジオメモリー

##### ◇ラジオメモリーの削除

不要になったラジオメモリーを削除します。  
いったん削除したラジオメモリーは、復元できませんので  
ご注意ください。

MENU > メモリー管理 > ラジオメモリー

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「ラジオメモリー」を選択する
4. 削除するラジオメモリーがあるグループを選択する  
(例：0)
5. 削除するラジオメモリーを選択した状態で、[QUICK]を  
押す



6. 「削除」を選択する



7. 「はい」を選択する  
• 選択したラジオメモリーが削除されます。

##### ◇ラジオメモリーの編集

すでに登録されているラジオメモリーを編集できます。

MENU > メモリー管理 > ラジオメモリー

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「ラジオメモリー」を選択する
4. 編集するラジオメモリーがあるグループを選択する  
(例：0)
5. 編集するラジオメモリーを選択した状態で、[QUICK]を  
押す



6. 「編集」を選択する



7. 項目を選択し、編集する  
※編集のしかたは、3-13ページをご覧ください。
8. 「<<上書き>>」を選択する



9. 「はい」を選択する  
• 選択したラジオメモリーが上書きされます。

## 3 メモリーチャンネル

### ■ラジオメモリー

#### ◇ラジオメモリーの移動

ラジオメモリーの中で放送局が表示される順番を並べ替えられます。

※ グループの中だけで並べ替えられます。

別のグループに移動させることはできません。

MENU > メモリー管理 > ラジオメモリー

1. [MENU]を短く押す
2. 「メモリー管理」を選択する
3. 「ラジオメモリー」を選択する
4. 移動させるラジオメモリーがあるグループを選択する  
(例：B)
5. 移動させるラジオメモリー(例：00)を選択した状態で、  
[QUICK]を押す
6. 「移動」を選択する



• 画面左上の「移動先」が点滅します。

7. 上下キーで移動先を指定し、決定キーを押す



- 選択したラジオメモリーの1つ上に移動します。
- 「<<最後に移動>>」を選択すると、その一覧の中で一番下に移動します。

■ スキャンの種類	4-2
◇ VFOスキャン	4-2
◇ メモリースキャン	4-2
■ スキャンの開始/停止	4-2
■ スキャンに便利な設定	4-2
◇ スキップの設定	4-2
◇ スキャン再開条件の設定	4-2
◇ 空線キャンセラー機能	4-2
◇ VSC(ボイススケルチコントロール)機能	4-2
■ VFOスキャン	4-3
◇ 全バンド	4-3
◇ バンド	4-3
◇ プログラムスキャン	4-3
◇ プログラムリンク	4-3
◇ オートMW(オートメモリーライトスキャン)	4-3
◇ プログラムスキャンエッジの登録	4-4
◇ プログラムリンクの設定	4-4
■ メモリースキャン	4-5
◇ すべて	4-5
◇ 現在のグループ	4-5
◇ カテゴリー/グループ	4-5
◇ グループリンク(1～3)	4-5
◇ お気に入り	4-5
◇ グループリンクの設定	4-6
■ メモリースキャン中のDUP確認機能	4-6
■ トーンスキャン	4-6
■ VFOスキャンのスキップ登録	4-7
◇ スキップ登録の操作	4-7
■ メモリーチャンネルのスキップ指定と解除	4-7
■ 一時スキップの指定	4-8
■ スキャン再開条件の設定	4-8
◇ 停止時間の設定	4-8
◇ 再開時間	4-8

### デュアルワッチ中のスキャン動作について

デュアルワッチは、Aバンド/Bバンドにそれぞれ周波数を設定し、両バンドで同時受信する機能です。

たとえば、デュアルワッチでAMモードを受信中に、もう一方のバンドでスキャンなど周波数を切り替えると、受信音に「ブツブツ」と音が入ることがあります。

この現象は、2つの受信回路でアンテナを共用しているため、周波数の切り替え時に発生する電圧の変動が受信音になるもので、故障ではありません。

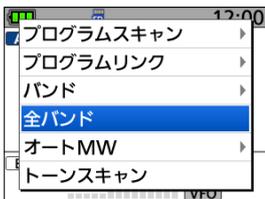
## 4 スキャン

### ■スキャンの種類

#### ◇VFOスキャン

VFOモードで、信号が出ている周波数を探します。

スキャンタイプ	動作概要	参照
プログラムスキャン	任意に設定した周波数範囲をスキャンする	P.4-3
プログラムリンク	あらかじめ登録した複数のプログラムスキャン範囲を連続してスキャンする	
バンド	受信バンド(周波数帯)内をスキャンする	
全バンド	すべての周波数範囲をスキャンする	
オートMW	信号を受信すると、その周波数を自動でメモリー管理のオートメモリーライトチャンネルグループ(オートMW CH)に書き込む(P.3-2)	P.4-6
トーンスキャン	受信している信号に重畳されているトーンの周波数を検知する(FM/FM-N時のみ)	

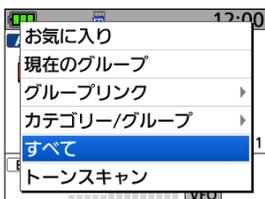


#### ◇メモリスキャン

メモリーモードで、信号が出ているメモリーチャンネル(あらかじめ周波数や受信モードなどを登録したチャンネル)を探します。

※メモリーチャンネルが2つ以上書き込まれていないと、メモリスキャンは動作しません。

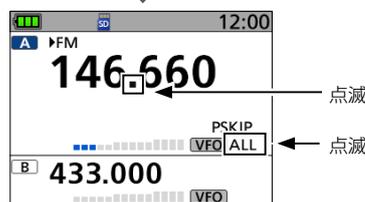
スキャンタイプ	動作概要	参照
お気に入り	お気に入りに登録したメモリーチャンネルをスキャンする	P.4-5
現在のグループ	選択中のグループ内のメモリーチャンネルをスキャンする	
グループリンク	あらかじめ登録した複数のグループを連続してスキャンする	
カテゴリー/グループ	カテゴリーにあるグループをスキャンする	
すべて	すべてのメモリーチャンネルをスキャンする	P.4-6
トーンスキャン	受信している信号に重畳されているトーンの周波数を検知する(FM/FM-N時のみ)	



### ■スキャンの開始/停止

VFOモード、またはメモリーモードを設定してから、スキャンを開始してください。

- [SCAN]を短く押す
  - スキャンタイプ一覧が表示されます。
- スキャンタイプを選択する(例:全バンド)



- 選択したスキャンタイプ表示、または「MR」が点滅し、スキャンを開始します。
  - 信号を受信すると、スキャンが一時停止して、信号強度に応じてSメーターが振れます。
- ※スキャン中に[DIAL]を回すと、スキャンの方向が切り替わります。

- [CLEAR]を押す
  - スキャンが解除されます。

### ■スキャンに便利な設定

#### ◇スキップの設定

スキップを設定すると、特定の周波数やメモリーチャンネルをスキャンの対象から除外できます。

- VFOスキャンのスキップ設定(P.4-7)
- メモリーチャンネルのスキップ設定(P.4-7)
- 一時スキップ設定(P.4-8)

#### ◇スキャン再開条件の設定

信号を受信してから、スキャンを再開するまでの時間を設定できます。(P.4-8)

#### ◇空線キャンセラー機能

鉄道無線での空線信号音(「ピー」や「キャラキャラ」)をミュートする機能です。(簡易マニュアル)

#### ◇VSC(ボイススケルチコントロール)機能

受信信号に音声信号が含まれているときだけ、スケルチが開く機能です。(簡易マニュアル)

## 4 スキャン

### ■VFOスキャン

特定の周波数範囲内で、信号が出ている周波数を探します。  
※スキャンの開始/停止については、4-2ページをご覧ください。

※VFOスキャンは、メーカーや書籍によっては「サーチ」と呼ばれる場合があります。

#### ◇全バンド



本製品で受信できるすべての周波数範囲(上図)をスキャンします。

※受信周波数範囲について詳しくは、11章をご覧ください。

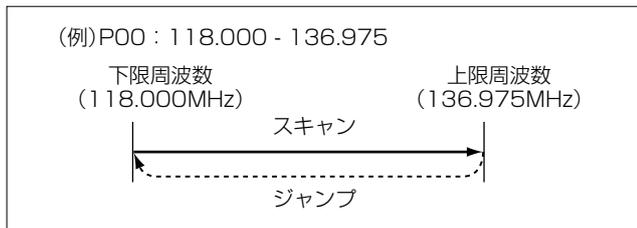
#### ◇バンド



現在受信しているバンド内をスキャンします。

★チューニングステップを「5.0kHz」に設定した場合の上限周波数です。

#### ◇プログラムスキャン

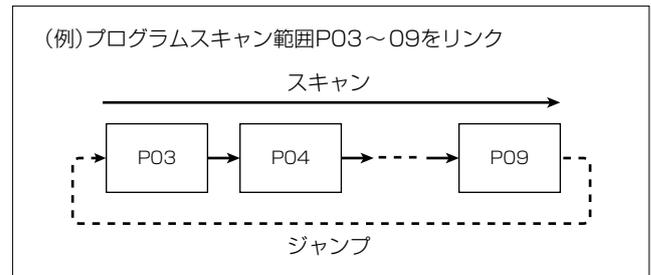


任意に設定した周波数範囲をスキャンします。

※下限周波数と上限周波数が同じ場合、プログラムスキャンは動作しません。

※プログラムスキャンエッジの登録(P.4-4)

#### ◇プログラムリンク

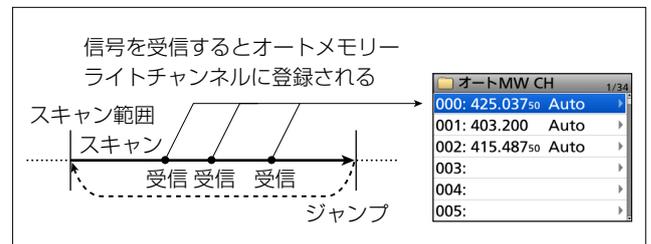


複数のプログラムスキャン範囲を連続してスキャンします。

※スキャン中に左右キーを押すと、プログラムスキャン範囲の切り替えができます。

※プログラムリンクの設定(P.4-4)

#### ◇オートMW(オートメモリーライトスキャン)



信号を受信するたびに、自動的にその周波数をオートメモリーライトチャンネルグループ(オートMW CH: 000~199)に書き込みます。

(MENU > メモリー管理 > メモリーチャンネル > オートMW CH)

書き込まれるタイミングは、信号を受信し、スキャンが自動的に再開したときです。

オートメモリーライトチャンネルの空きメモリーがなくなったときは、スキャンが解除されます。

※オートメモリーライトスキャン開始時に、「オートMWスキャングループのメモリーをすべてクリアしますか?」が表示されます。(初期設定)

はい : オートメモリーライトチャンネルの内容をすべて消去する

いいえ : オートメモリーライトチャンネルの空きメモリーに順次書き込む

ダイアログを非表示にする場合は、7-5ページをご覧ください。

(MENU > SET > スキャン設定 > オートMWスキャン開始時のメモリークリア)

## 4 スキャン

### ■VFOスキャン

#### ◇プログラムスキャンエッジの登録

MENU > SET > スキャン設定 > プログラムスキャンエッジ

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「スキャン設定」を選択する
4. 「プログラムスキャンエッジ」を選択する
5. 空いているプログラムスキャン範囲(P00~24)を選択した状態で[QUICK]を押す

6. 「編集」を選択する



7. テンキーで下限周波数、上限周波数を設定する  
※ネームを登録すると、スキャンタイプ一覧に表示されます。  
※TS(周波数ステップ)とモードは、目的の信号に合わせて正しく設定する必要があるため、基本的には「Auto」に設定することをおすすめします。  
※設定した周波数範囲に108.00000~136.99500が含まれている場合、TSを8.33kHzに設定できます。



8. 「<<書き込み>>」を選択する



9. 「はい」を選択する  
• プログラムスキャンエッジが登録されます。

#### ご参考

- ◎プログラムスキャンエッジの内容を削除するときは、手順6で「クリア」を選択します。
- ◎設定したTS(周波数ステップ)、およびモードが使用できない範囲をスキャンするときは、バンドごとにあらかじめ設定されたTSでプログラムスキャンが動作します。

#### ◇プログラムリンクの設定

MENU > SET > スキャン設定 > プログラムリンク

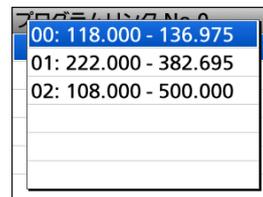
1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「スキャン設定」を選択する
4. 「プログラムリンク」を選択する
5. 設定するプログラムリンク(0~9)を選択する



6. [QUICK]を押して、「追加」を選択する



7. 追加するプログラムスキャン範囲を選択する



- プログラムリンクに選択したプログラムスキャン範囲が追加されます。

#### ご参考

- ◎プログラムリンクのネームを編集するときは、手順4のあとに[QUICK]を押して、「名前編集」を選択します。
- ◎登録したプログラムスキャン範囲をプログラムリンクから除外するときは、手順6で「削除」を選択します。

## 4 スキャン

### ■メモリスキャン

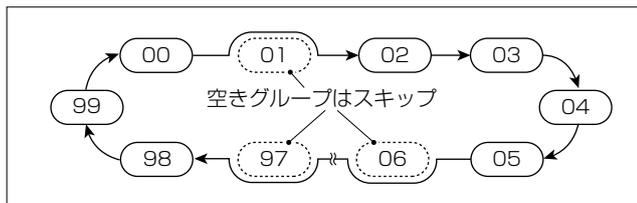
あらかじめ登録したメモリーチャンネル(3章)の中で、信号が出ているチャンネルを探します。

※ スキャンの開始/停止については、4-2ページをご覧ください。

※ メモリスキャン中のDUP確認機能については、4-6ページをご覧ください。

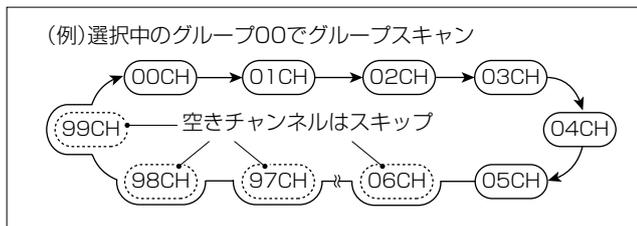
※ スキップが「OFF」に設定されているメモリーチャンネルだけをスキャンします。

#### ◇すべて



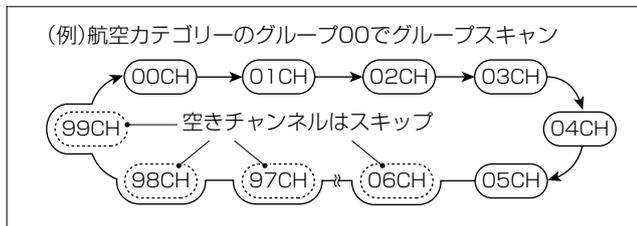
すべてのメモリーチャンネル(グループ00~99)をスキャンします。

#### ◇現在のグループ



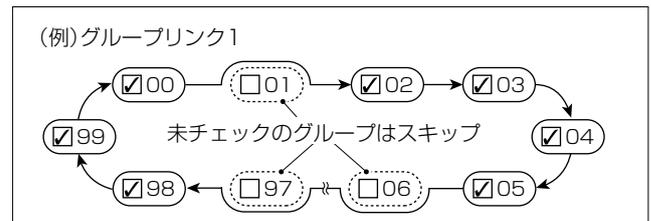
選択中のグループにあるメモリーチャンネルをスキャンします。

#### ◇カテゴリー/グループ



任意のカテゴリー内にある、任意のグループを選択してスキャンします。

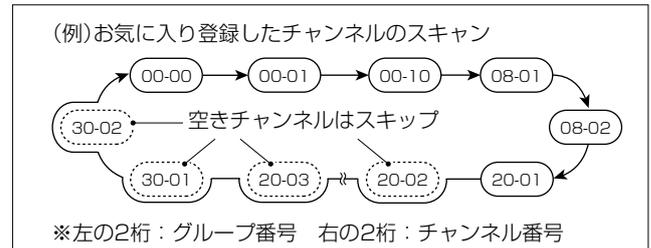
#### ◇グループリンク(1~3)



グループリンク(1~3)に設定しているグループを、連続してスキャンします。

※ グループリンクの設定(P.4-6)

#### ◇お気に入り



お気に入りに登録したメモリーチャンネルをスキャンします。

※ お気に入り登録のしかた(P.8-2)

## 4 スキャン

### ■メモリスキャン

#### ◇グループリンクの設定

MENU > SET > スキャン設定 > グループリンク

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「スキャン設定」を選択する
4. 「グループリンク」を選択する
5. グループリンク1～3から選択する



6. 決定キーを押してグループにチェックを入れる、またはチェックをはずす



- チェックを入れたグループがグループリンクスキャンの対象になります。

※初期設定では、すべてのグループにチェックが入っています。

#### ご参考

すべてのグループにチェックを入れる、またはチェックをはずすときは、手順6のあとに[QUICK]を押して、「すべてON」、または「すべてOFF」を選択してください。



### ■メモリスキャン中のDUP確認機能

◎デュプレックスを設定しているメモリーチャンネルでは、オフセット周波数分だけシフトした周波数もメモリスキャン対象にできます。

(MENU > SET > スキャン設定 >

DUPチェック(MRスキャン時))

◎デュプレックスを設定しているメモリーチャンネルで一時停止中、QUICKメニューの「DUP周波数切替」を選択すると、元の周波数とオフセット周波数分シフトした周波数が切り替わります。

### ■トーンスキャン

トーン周波数、またはDTCSコードを含んだ信号を受信しているときにトーンスキャンをすることで、トーン周波数、またはDTCSコードを検出し、受信音を聞くことができます。

※FM/FM-Nモード時にQUICKメニューから設定できます。

※トーンスケルチについて詳しくは、8-3ページをご覧ください。

1. [QUICK]を短く押して、「TONE」を選択する
2. トーンスケルチタイプを「TSQL」、「DTCS」、「TSQL-R」、「DTCS-R」から選択する
3. [SCAN]を短く押して、「トーンスキャン」を選択する



点滅  
(TSQL、TSQL-R選択時のみ)

トーンスキャン中の表示

- トーンスキャンを開始します。

※トーン周波数、またはDTCSコードが一致すると、現在受信している信号のトーン周波数書き替わり、音声が聞こえます。(TSQL、DTCS選択時)

メモリー表示でのトーンスキャンでは、受信している周波数のトーン周波数は一時的に変更されますが、メモリーチャンネルの設定は書き替えません。

4. [CLEAR]を押して、トーンスキャンを解除する

## 4 スキャン

### ■VFOスキャンのスキップ登録

VFOスキャン中に、受信した周波数をメモリー管理のスキップチャンネルグループ(SKIP CH:00~99)に登録して、スキャンの対象から除外(PSKIP)する設定です。

※ PSKIPを無効にする場合は、「プログラムスキップ」を「OFF」に設定してください。

(MENU > SET > スキャン設定 > **プログラムスキップ**)

#### ◇スキップ登録の操作

1. 信号を受信して、VFOスキャンが一時停止中に[SKIP]を押す
2. 「SKIP CHグループ登録」を選択する



- 「ピピッ」と鳴り、受信している周波数がスキップチャンネルグループに登録されると同時に、スキップ指定されます。

※メモリー管理の「SKIP CH」に登録されます。(P.3-2)

### ■メモリーチャンネルのスキップ指定と解除

メモリーチャンネルを指定して、スキャンの対象から除外(SKIP/PSKIP)する設定です。

※プログラムスキャンエッジ(P.4-4)は、スキップ指定できません。

1. メモリーモードでスキップ設定するチャンネルを表示させる
2. [QUICK]を短く押す
3. 「SKIP」を選択する



4. 下記から選択する
  - OFF : スキップしない
  - SKIP : メモリースキャン時にスキップする  
※VFOスキャン時はスキップされません。
  - PSKIP : VFOスキャン、およびメモリースキャン時にスキップする

※メモリー管理からでもチャンネルを選択し、[QUICK]から編集できます。

(MENU > メモリー管理 > **メモリーチャンネル**)

- 「SKIP」、または「PSKIP」が表示されます。



## 4 スキャン

### ■一時スキップの指定

VFOスキャンで信号を受信した周波数、またはメモリースキャンで信号を受信したメモリーチャンネルを指定して、一時的にスキャンの対象から除外する設定です。

1. スキャンを開始(P.4-2)する(例：VFOスキャン)
  - 信号を受信すると、スキャンが一時停止します。
2. [SKIP]を押す
3. 「一時スキップ 登録」を選択する



- 一時スキップの設定が完了すると、「この周波数をスキップします」が表示され、スキャンが再開されます。

#### ご参考

- ◎一時スキップは、最大20件設定できます。20件以上指定しようとした場合、古い設定を解除します。
- ◎一時スキップ時間は、セットモードで変更できます。(MENU > SET > スキャン設定 > 一時スキップ時間)
- ◎一時スキップ時間(初期設定：5分)の設定にしたがう、またはQUICKメニューの「一時スキップ 解除」を選択すると、一時スキップは解除されます。

### ■スキャン再開条件の設定

信号を受信してから、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

#### ◇停止時間の設定

スキャン中に信号を受信したときの、スキャンが一時停止する時間を設定します。

MENU > SET > スキャン設定 > 停止時間

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「スキャン設定」を選択する
4. 「停止時間」を選択する
5. 下記から時間を選択する(初期設定：10秒)
  - 2秒～20秒 : 設定時間が経過するとスキャンが再開する(2秒刻み)
  - ホールド : 信号を受信中は一時停止をつづける※一時停止中に信号がなくなると、「再スタート時間」の条件で再開します。

#### ◇再開時間

スキャンが一時停止後、信号がなくなってからスキャンが再開するまでの時間を設定します。

MENU > SET > スキャン設定 > 再スタート時間

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「スキャン設定」を選択する
4. 「再スタート時間」を選択する
5. 下記から時間を選択する(初期設定：2秒)
  - 0秒 : 信号がなくなると同時に再開する
  - 1秒～5秒 : 信号がなくなると、設定時間が経過後に再開する
  - ホールド : 信号がなくなっても一時停止状をつづける※スキャンを再開するときは、[DIAL]を操作します。  
※「停止時間」が2秒～20秒の場合、停止時間を優先して再開します。

---

■ 基本操作 .....	5-2
◇ ラジオモードについて .....	5-2
◇ ラジオモードのON/OFF .....	5-2
◇ チューニングモードとメモリーモードの切り替え .....	5-2
◇ 放送電波を探すには .....	5-3
◇ ラジオのATT機能 .....	5-3
◇ メモリーモード時のグループ切り替え .....	5-4
◇ SKIP選択モードのスキップ設定 .....	5-4
◇ ラジオのスケルチレベルを調整する .....	5-5
◇ ラジオのモニター設定 .....	5-5

## 5 ラジオ

### ■基本操作

#### ◇ラジオモードについて

本製品は、FMラジオ放送(76.0MHz~108.0MHz)を受信できます。

ラジオメモリーには、あらかじめ各地域の放送局がプリセットされているため、聴きたい放送局をラジオメモリーから探すこともできます。(P.3-13)

ラジオだけを聴きたい場合は、シングル表示にするか、MENU画面にある「かんたん」や、「FMラジオ」からラジオを選択することもできます。

FMラジオを選択できるのはAバンドだけです。

#### ◇ラジオモードのON/OFF

1. [QUICK]を短く押す
2. 「<<ラジオモード>>」を選択する



• 「FMラジオ」が表示されます。

※ラジオモードをOFFにするときは、上記手順2で「<<ラジオモード解除>>」を選択します。

#### ◇チューニングモードとメモリーモードの切り替え

ラジオモードで[MR]を短く押すごとに、ラジオのチューニングモードとメモリーモードを切り替えます。

[DIAL]を回すと、周波数、またはメモリーチャンネルが変わります。

#### ●ラジオ チューニングモードとは

[DIAL]で、周波数を設定するモードです。



チューニングモード

#### ●ラジオ メモリーモードとは

あらかじめ周波数を記憶させたメモリーチャンネルを呼び出して受信するモードです。

メモリーモード選択時は「MR」と、グループ(アルファベット)と、メモリーチャンネル番号が点灯します。



メモリーモード

ラジオ チューニングモードから周波数を保存するには [MW]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、書き込み選択画面が表示されます。

新規書き込み : ラジオメモリーの空きチャンネル画面が表示されます。決定キーを押すと、確認画面が表示され、「はい」を選択すると書き込まれます。

選択中のCHに上書き : ラジオメモリーモードで選択しているチャンネル画面が表示されます。決定キーを押すと、確認画面が表示され、「はい」を選択すると上書きされます。

## 5 ラジオ

### ■基本操作

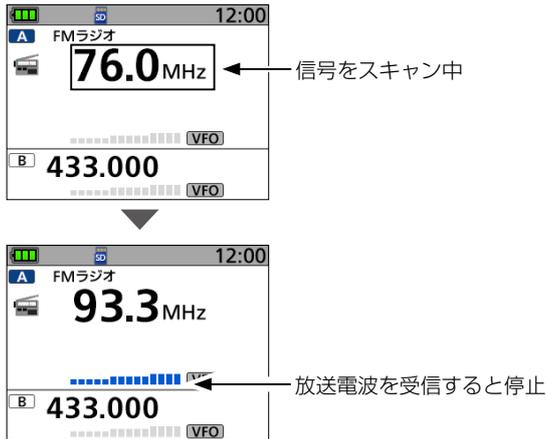
#### ◇放送電波を探すには

チューニングモード時、左または右キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、信号のある放送電波を探し出します。

※左キーを長く押すとダウンスキャン、右キーを長く押すとアップスキャンを開始します。

※放送電波を受信すると、その周波数で停止します。

※スキャンを停止させたい場合は、左キー、右キー、または[CLEAR]を押します。



#### ◇ラジオのATT機能

FMラジオアッテネーター(減衰器)は、強いラジオ信号を受信したときに信号強度を減衰させて受信音のひずみを低減します。

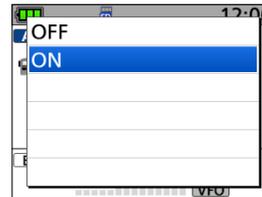
また、ラジオモードで、高い利得のアンテナ(市販品)を使用した場合に、強い信号からの混変調の影響を抑える効果もあります。

※ラジオ信号以外の強い信号については、「ATT」で設定できません。

1. [QUICK]を短く押す
2. 「FMラジオATT」を選択する



3. 「ON」を選択する



- 「FMラジオ」の右側に「ATT」が表示されます。

## 5 ラジオ

### ■基本操作

#### ◇メモリーモード時のグループ切り替え

ラジオメモリーには、各グループに地域の放送局があらかじめセットされています。

グループを切り替えると、別の地域の放送局に変更できます。

1. [MR]を短く押して、メモリーモードにする



2. [QUICK]を短く押す
3. 「グループ切替」を選択する



4. グループを選択する(例：D)



- グループが切り替わり、QUICKメニューが解除されます。
- ※ [DIAL]を回すと、メモリーチャンネルを変更します。

#### ◇SKIP選択モードのスキップ設定

ラジオメモリーモードで、スキップ設定すると、選択の対象からはずせます。

SKIP選択モードでは、[DIAL]操作でSKIP指定されているメモリーチャンネルも選択でき、[SKIP]を押すことでSKIP指定/解除が容易にできます。

1. [MR]を短く押して、メモリーモードにする



2. [QUICK]を短く押す
3. 「SKIP選択モード」を選択する



- 「DIAL選択：SKIPチャンネルも表示」が表示し、「MR」が点滅します。



[SKIP]を押すごとに  
SKIPが表示/非表示

SKIP選択モード  
の表示

※ [DIAL]を回すと、SKIP指定されていないメモリーチャンネルも表示します。

※ [SKIP]を押すごとにSKIPを指定/解除します。

4. [CLEAR]を押す
  - 「MR」に戻り、SKIP選択モードが解除されます。

#### ご参考

ラジオモードで[QUICK]を押して、「SKIP」を選択しても、スキップ設定できます。

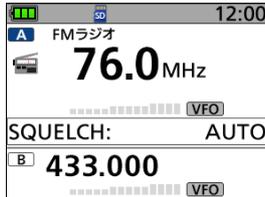
## 5 ラジオ

### ■基本操作

#### ◇ラジオのスケルチレベルを調整する

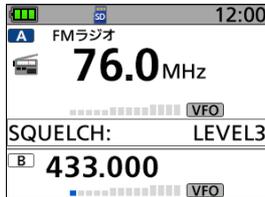
通常のスケルチ設定とは別に、ラジオ専用のスケルチレベルを調整できます。

1. [SQL]を押しながら[DIAL]を1クリック回す



- 現在設定しているスケルチレベルが表示されます。  
(初期設定：AUTO)

2. [SQL]を押しながら[DIAL]を回して、スケルチレベルを調整する(例：LEVEL3)



- スケルチレベル：OPEN(開放)、AUTO(自動)、  
LEVEL1～LEVEL3

※スケルチレベルの数値が小さいほど、弱い信号でも受信できます。

#### ◇ラジオのモニター設定

ラジオの受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に使用します。

[SQL]を押しているあいだ、スケルチを開いて受信します。



モニター機能動作時は点滅する

- スケルチレベルの「OPEN」と同じ状態になります。  
※「モニター」の設定を「ホールド」に選択すると、[SQL]を押すごとにモニター機能がON/OFF(スケルチ動作がOPEN/CLOSE)します。  
(MENU > SET > 機能設定 > モニター)

ご使用になる microSD カードの取り付けや注意事項などは、簡易マニュアル6章をご覧ください。

■ 録音する	6-2
◇ 録音を開始する	6-2
◇ 録音を停止する	6-2
■ 再生する	6-3
◇ ボイスプレーヤー画面の操作	6-3
■ 音声フォルダーとファイルの削除	6-4
◇ 音声フォルダーを削除する	6-4
◇ 音声ファイルを削除する	6-4
■ ファイル情報を確認する	6-5
■ 録音した内容をパソコンで再生する	6-6
■ 録音/再生の詳細設定	6-7

## 6 録音/再生

### ■録音する

受信音声を microSD カードに録音します。

#### ご注意

録音するには、市販の microSD カードを取り付けておく必要があります。

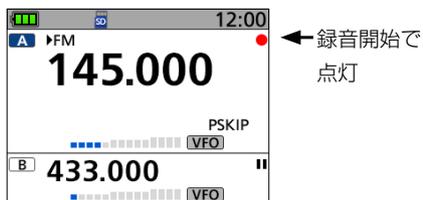
#### ◇録音を開始する

[●REC] を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押す

- 「録音を開始しました。」が表示され、録音を開始します。



- スケルチが開く、または受信すると録音を開始します。



※デュアル表示では、AバンドとBバンドを同時に録音します。

シングル表示では、表示されているバンド(AまたはB)だけ録音を開始します。

※信号を受信しないあいだは録音を一時停止し、ふたたび信号を受信すると再開します。

※録音を停止するか、microSDカードの空き容量がなくなるまで、録音されつづけます。

#### ◇録音を停止する

録音中に [●REC] を長く (ピッ、ピーと鳴るまで) 押す

- 「録音を停止しました。」が表示され、録音を停止します。

#### ご参考

##### ◎メインバンドだけを録音開始/停止するには

MENU画面で、「録音操作」を「A/B個別」に設定すると、メインバンドに選択したバンドの受信内容だけの録音を開始、または停止します。(P.6-7)

(MENU > 録音/再生 > 録音設定 > 録音操作)

##### ◎常に録音状態にするには

MENU画面で、「受信録音条件」を「常時」に設定すると、録音操作をすると、すぐに録音を開始します。

※待ち受けしているときも、無音状態が録音されません。(P.6-7)

(MENU > 録音/再生 > 録音設定 > 受信録音条件)

#### ご注意

一度録音を開始すると、録音停止操作をするまでは電源を入れなおしても録音スタンバイ状態は保持されます。電源を入れてから電源を切るまで、受信中の音声がすべて録音されます。

## 6 録音/再生

### ■再生する

microSDカードに録音された受信音声を再生します。

#### ご注意

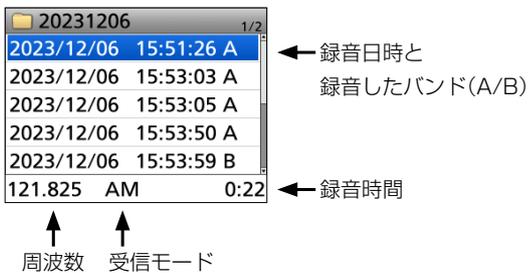
録音された音声が入力されている microSD カードを取り付けておく必要があります。

MENU > 録音/再生 > ファイル再生

1. [MENU] を短く押す
2. 「録音/再生」を選択する
3. 「ファイル再生」を選択する
4. 再生するファイルが格納されているフォルダーを選択する  
※フォルダー名は、作成された年(Y)、月(M)、日(D)の順に「YYYYMMDD」となります。



5. 再生するファイルを選択する
  - 「ボイスプレーヤー」画面が表示され、再生を開始します。
  - ※ファイル名は、録音を開始した年(Y)、月(M)、日(D)、時(h)、分(m)、秒(s)の順に「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」となります。
  - ※「ボイスプレーヤー」画面の操作については、右記をご覧ください。



#### ご参考

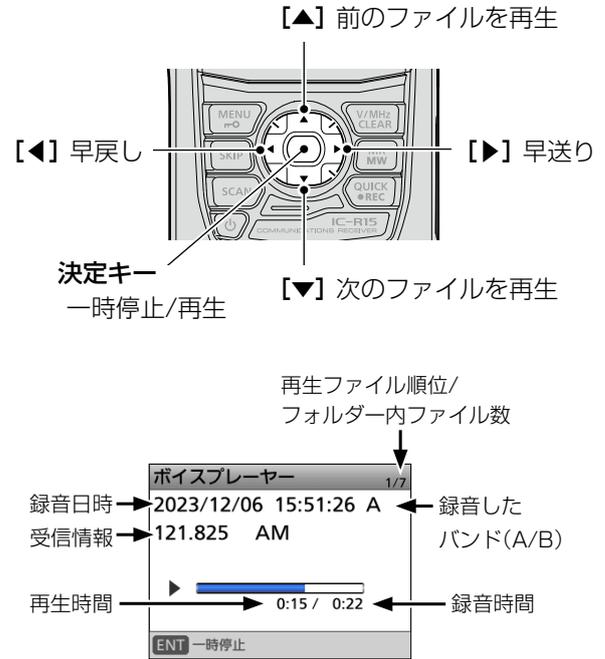
手順5で[QUICK]を押して、「表示ファイル」を選択すると、一覧画面のファイルを絞り込んで表示できます。

- 全て : すべてのファイルを表示する
- Aのみ : Aバンド(上側)で録音したファイルだけを表示する
- Bのみ : Bバンド(下側)で録音したファイルだけを表示する



### ◇ボイスプレーヤー画面の操作

ボイスプレーヤーを操作して、受信内容を再生します。



#### [◀](早戻し)/[▶](早送り)

- 押しつづけると、再生位置が連続で移動します。
- 短押しで再生位置が移動する時間の初期値は10秒です。「スキップ時間」(P.6-7)の設定で変更できます。
- [DIAL]でファイルの再生位置を変更できます。この場合、スキップ時間の設定に関係なく、再生位置は録音時間の1/20ずつ移動します。

#### [◀](早戻し)

再生開始から1秒以内に早戻しをすると、1つ前のファイルの最後に移動します。

#### [▲](前のファイルを再生)

- 再生中のファイルがフォルダーの中で最も古い場合、同じファイルがもう一度、再生されます。
- 一時停止中に押すと、再生開始位置がそのファイルのはじめに戻ります。(ファイルの頭出し)決定キーを押すと、再生が開始されます。

#### [▼](次のファイルを再生)

再生中のファイルがフォルダーの中で最も新しい場合、そのファイルのはじめに戻ります。(ファイルの頭出し)決定キーを押すと、再生が開始されます。

## 6 録音/再生

### ■音声フォルダーとファイルの削除

#### ご注意

削除したファイルやフォルダーは、復元できません。

#### ◇音声フォルダーを削除する

#### ご注意

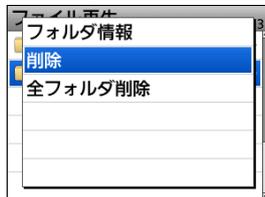
フォルダー内のすべてのファイルが削除されます。

MENU > 録音/再生 > ファイル再生

1. [MENU]を短く押す
2. 「録音/再生」を選択する
3. 「ファイル再生」を選択する
4. 削除するフォルダーを選択した状態にする  
※決定キーは押さないでください。



5. [QUICK]を押す
6. 「削除」を選択する



7. 「はい」を選択する  
• フォルダーが削除されます。
8. [MENU]を押す  
• MENU画面が解除されます。

#### 音声フォルダーを一括削除するには

手順6で「全フォルダ削除」を選択すると、すべてのフォルダーを一括削除できます。

#### ◇音声ファイルを削除する

MENU > 録音/再生 > ファイル再生

1. [MENU]を短く押す
2. 「録音/再生」を選択する
3. 「ファイル再生」を選択する
4. 削除するファイルが格納されているフォルダーを選択する
5. 削除するファイルを選択した状態にする  
※選択後、決定キーを押さないでください。



6. [QUICK]を押す
7. 「削除」を選択する



8. 「はい」を選択する  
• ファイルが削除されます。
9. [MENU]を押す  
• MENU画面が解除されます。

#### ファイルを一括削除するには

手順7で「全削除」を選択すると、すべてのファイルを一括削除できます。

※「表示ファイル」(P.6-3)を「Aのみ」、または「Bのみ」に設定しているときは、「全削除(Aのみ)」、または「全削除(Bのみ)」が表示され、そのときに表示されているファイルが一括削除されます。

## 6 録音/再生

### ■ファイル情報を確認する

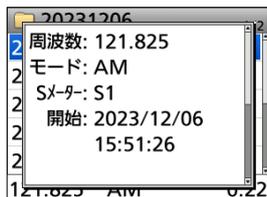
音声ファイルには、録音時の受信周波数、受信モード、録音開始日時などの情報が記録されています。

MENU > 録音/再生 > ファイル再生

1. [MENU] を短く押す
2. 「録音/再生」を選択する
3. 「ファイル再生」を選択する
4. ファイルが格納されているフォルダーを選択する
5. 情報を確認するファイルを選択した状態にする  
※選択後、決定キーを押さないでください。



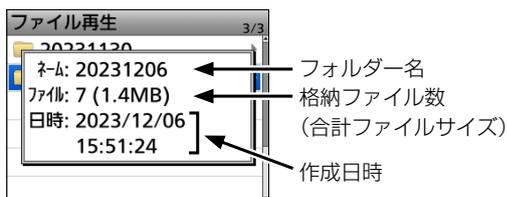
6. [QUICK] を押す
7. 「ファイル情報」を選択する



8. [DIAL] を回して、画面を切り替える
9. [MENU] を押す
  - ファイル情報画面が解除され、手順5の画面に戻ります。

#### 音声フォルダーの情報を確認するには

手順4で[QUICK]を押して、「フォルダ情報」を選択すると、そのフォルダーの情報を確認できます。



## 6 録音/再生

### ■録音した内容をパソコンで再生する

本製品で録音した内容をパソコンでも再生できます。  
なお、録音した周波数や時間などの情報は、表示されません。

※ Windows 11 を例に説明します。

例：SDカードモードで、本製品とパソコンをUSBケーブルで接続後、パソコン上でファイルを再生する場合

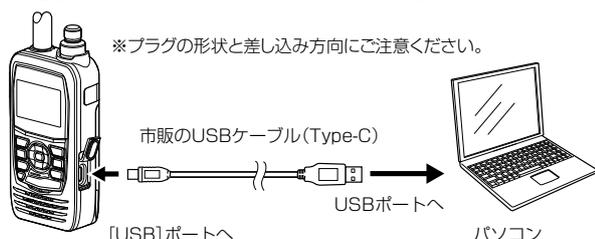
※ 録音データが保存されている microSD カードを取り付けておく必要があります。

※ SDカードモードでパソコンに接続したときは、本製品に取り付けられている microSD カードが USB メモリーとして認識されます。

SDカードモードについては、2-9ページをご覧ください。

#### MENU > SET > 機能設定 > USB接続

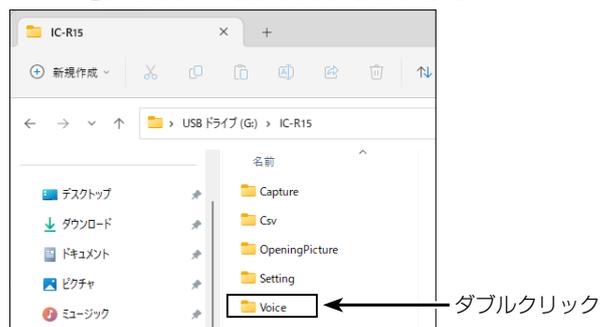
1. 本製品とパソコンをUSBケーブルで接続する



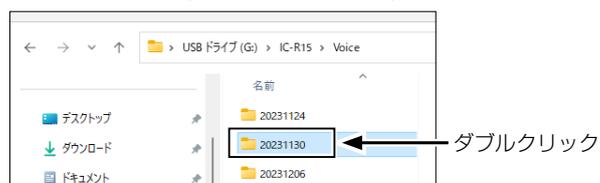
2. [MENU]を押す
3. 「SET」を選択する
4. 「機能設定」を選択する
5. 「USB接続」→「SDカードモード」を選択する
  - 確認画面が表示されます。
6. 「はい」を選択する
  - SDカードモードでパソコンに接続され、microSDカードのデータが保存されているフォルダが表示されます。
7. IC-R15フォルダをダブルクリックする



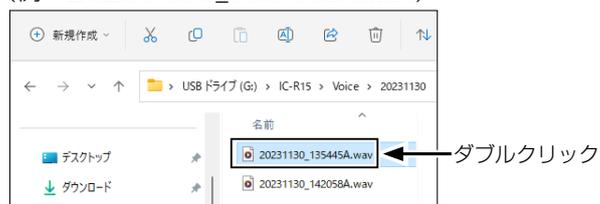
8. 「Voice」フォルダをダブルクリックする



9. 再生するファイルが格納されているフォルダをダブルクリックする(例：20231130)



10. 再生するファイルをダブルクリックする(例：20231130\_135445A.wav)



• 録音した音声再生されます。

※ 再生中の操作はお使いのソフトウェアにより異なりますので詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

※ 録音した内容が再生されない場合、再生用ソフトウェア (Windows Media Playerなど) をダウンロードしてください。

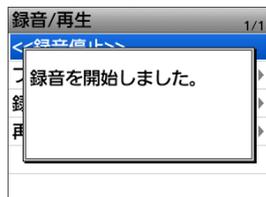
## 6 録音/再生

### ■録音/再生の詳細設定

#### ◀録音開始▶

MENU > 録音/再生 > ▶録音開始▶

「▶録音開始▶」を選択すると、「録音を開始しました。」が表示されて、受信内容(音声)の録音を開始します。



- 録音中は、「▶録音停止▶」が表示されます。
- ※あらかじめ、本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。
- ※「▶録音停止▶」を選択すると、録音を停止します。
- ※一度録音を開始すると、録音停止操作をするまでは電源を入れなおしても録音状態は保持されます。

#### ファイル再生

MENU > 録音/再生 > ▶ファイル再生▶

microSDカードに保存された受信内容(音声)を再生するときに操作します。

「▶ファイル再生▶」を選択すると、microSDカードに保存されたファイルが格納されているフォルダーを表示します。

- ※あらかじめ、本製品にmicroSDカードを取り付けておいてください。

#### ご参考

- ◎microSDカードには、下記のフォルダーが作成されます。  
例：2023年12月1日の録音  
20231201
- ◎フォルダーの中には、下記のファイルが作成されます。  
例：2023年12月1日15時30分00秒の録音  
20231201\_153000★
- ★は録音したバンド(AまたはB)が表示されます。
- ◎録音した音声は、Wav形式のファイルで保存されます。  
※本製品の画面上では、拡張子は表示されません。
- ◎microSDカードに保存された音声は、パソコンでも再生できます。

#### 受信録音条件

(初期設定:スケルチ連動)

MENU > 録音/再生 > ▶録音設定▶ > ▶受信録音条件▶

受信時にスケルチの状態に連動して録音するかどうかの設定です。

- 常時：受信信号の有無に関わらず録音する  
※待ち受けしているときも、無音状態が録音されません。
- スケルチ連動  
：信号を受信しているあいだ(スケルチが開いているあいだ)だけ録音する  
※スケルチが閉じた直後は、2秒間録音を継続します。

#### ファイル分割

(初期設定:ON)

MENU > 録音/再生 > ▶録音設定▶ > ▶ファイル分割▶

録音を開始したときに作成されるファイルについての設定です。

- OFF：録音を開始すると、作成されたファイルに録音をつづける  
※ファイル容量が4GBを超えるときは、新しく作成されたファイルで録音をつづけます。
- ON：スケルチの開閉ごとに、新しいファイルが作成されて録音する

#### 録音操作

(初期設定:A/B同時)

MENU > 録音/再生 > ▶録音設定▶ > ▶録音操作▶

録音操作をしたとき、A/Bバンドを同時に録音するか、メインバンドだけ録音するかの設定です。

- A/B個別：メインバンドだけを録音する
- A/B同時：A/Bバンド同時に録音する  
※シングル表示では、メインバンド(A、またはB)だけを録音します。

#### スキップ時間

(初期設定:10秒)

MENU > 録音/再生 > ▶再生設定▶ > ▶スキップ時間▶

再生内容の早戻し、または早送りされる時間についての設定です。

- 選択肢：3秒、5秒、10秒、30秒  
※早送りや早戻しのしかたなどは、6-3ページをご覧ください。

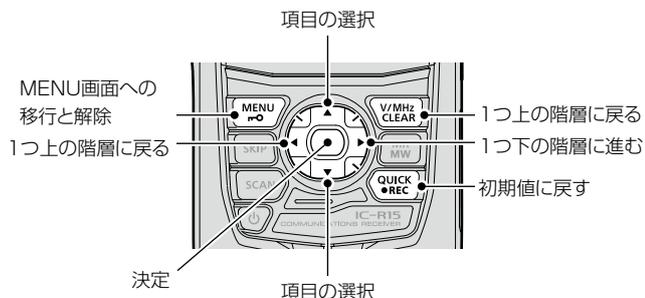
- 設定項目の選択方法 ..... 7-2
  - ◇ MENU画面でのおもな操作 ..... 7-2
  - ◇ 設定内容を変更する ..... 7-3
- スキャン設定 ..... 7-4
- 機能設定 ..... 7-6
- ディスプレイ設定 ..... 7-9
- サウンド設定 ..... 7-11
- 時間設定 ..... 7-12
- SDカード ..... 7-13
- Bluetooth設定 ..... 7-14
- その他 ..... 7-14

## 7 セットモード

### ■設定項目の選択方法

[MENU]を短く押すと、MENU画面が表示されます。MENU画面にある「SET」では、設定されている使用条件を状況やお好みの使いかたに応じて変更できます。各設定項目については、7-4ページ以降をご覧ください。

#### ◇MENU画面でのおもな操作



#### 選択する操作の表記について

本書では、下記のように操作を略表記しています。

##### 略表記

1. [MENU]を短く押す
2. 「30分」を選択する

##### 略表記の詳細な操作

1. [MENU]を短く押して、MENU画面に切り替える
2. 上下キーを押して「30分」を選択し、決定キーを押す

#### ご参考

各設定画面内に、さらに設定項目が配置されています。これを「階層」といいます。

各設定項目からその下の設定項目に移動することを、「次の階層に進む」、その逆を「1つ前の階層に戻る」といいます。

#### MENU画面とSETの各設定項目



## 7 セットモード

### ■ 設定項目の選択方法

#### ◇ 設定内容を変更する

例：オートパワーオフ機能を30分に設定する場合

MENU > SET > 機能設定 > オートパワーオフ

1. [MENU]を短く押す
2. [SET]を選択する
3. 「機能設定」を選択する



4. 「オートパワーオフ」を選択する



5. 「30分」を選択する
  - 設定が有効になり、1つ前の階層(手順3)に戻ります。



6. [MENU]を押す
  - MENU画面が解除され、通常画面に戻ります。

#### 初期値に戻す場合

手順5で[QUICK]を押して、「初期値に戻す」を選択すると、初期値に戻ります。



## 7 セットモード

### ■スキャン設定

#### 停止時間 (初期設定：10秒)

MENU > SET > スキャン設定 > 停止時間

スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。ここでは、一時停止する時間を設定します。設定時間だけ受信をつづけ、設定時間を過ぎるとスキャンを再開します。

※Aバンド(上側)、Bバンド(下側)ごとに設定できます。

- 2秒～20秒(2秒刻み)  
：停止中に信号がなくなると、「再スタート時間」の条件で再開する
- ホールド  
：信号を受信中は一時停止をつづけ、信号がなくなると、「再スタート時間」の条件で再開する

#### 再スタート時間 (初期設定：2秒)

MENU > SET > スキャン設定 > 再スタート時間

スキャンが一時停止後、信号がなくなってからの再開の条件(時間)を設定する項目です。

※Aバンド(上側)、Bバンド(下側)ごとに設定できます。

- 0秒  
：信号がなくなると同時に再開する
- 1秒～5秒  
：信号がなくなると、1秒～5秒の各設定時間後にスキャンを再開する
- ホールド  
：信号がなくなっても一時停止状態を保持する  
※スキャンを再開するときは、[DIAL]を操作します。  
※「停止時間」が2秒～20秒の場合、停止時間を優先して再開します。

#### 一時スキップ時間 (初期設定：5分)

MENU > SET > スキャン設定 > 一時スキップ時間

スキャン中に一時スキップ指定をしたとき、その指定を有効にする時間を設定します。

VFOスキャン、メモリスキャンで動作します。

※Aバンド(上側)、Bバンド(下側)ごとに設定できます。

- 5分/10分/15分  
：指定した時間だけ、一時スキップを有効にする
- スキャン中  
：スキャンを停止するまで、一時スキップを有効にする
- 電源ONの間  
：電源を切るまで、一時スキップを有効にする

#### プログラムスキップ (初期設定：ON)

MENU > SET > スキャン設定 > プログラムスキップ

VFOスキャン時に、「PSKIP」に設定したメモリーチャンネルの登録周波数を飛び越す(スキップする)、プログラムスキップ機能を設定します。

※Aバンド(上側)、Bバンド(下側)ごとに設定できます。

- OFF  
：プログラムスキップスキャンを使用しない
- ON  
：VFOモードのスキャン時に、「PSKIP」に設定したメモリーチャンネルの周波数をスキップする

#### プログラムスキャンエッジ

MENU > SET > スキャン設定 > プログラムスキャンエッジ

プログラムスキャンエッジ(プログラムスキャンの上限周波数、および下限周波数)を編集、またはクリアできます。25組(00～24)のプログラムスキャンエッジを登録できます。

プログラムスキャンエッジごとに、ネーム、周波数ステップ、受信モードを設定できます。

初期設定は、次のとおりです。

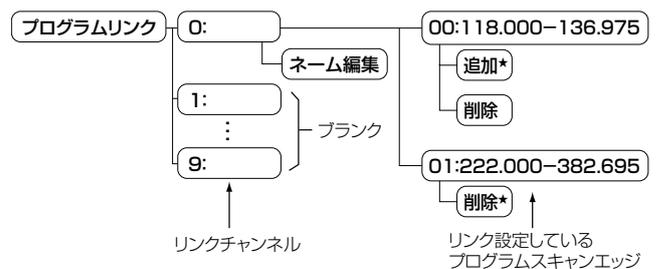
- 00  
：118.000-136.975
- 01  
：222.000-382.695

#### プログラムリンク (初期設定：下図参照)

MENU > SET > スキャン設定 > プログラムリンク

プログラムリンクスキャンで、複数のプログラムスキャン(00～24)をリンクチャンネル(0～9)に設定します。

#### プログラムリンク階層イメージ



初期設定では、「プログラムリンク No.0」に、「00:118.000-136.975」と「01:222.000-382.695」がリンク設定されています。

★2組以上のプログラムスキャンエッジが書き込まれていないとき、または選択したリンクチャンネルに追加できるプログラムスキャンエッジ(00～24)がないときは、「追加」が表示されません。

## 7 セットモード

### ■スキャン設定

#### オートMWスキャン開始時のメモリークリア

(初期設定：ダイアログの表示)

MENU > SET > スキャン設定 >

オートMWスキャン開始時のメモリークリア

オートメモリーライトスキャン開始時に、オートメモリーライトチャンネルグループ(オートMW CH)の内容をすべて削除するかどうかを設定します。

- OFF : 内容を削除せず、空きチャンネルに順次書き込む
- ダイアログの表示：オートメモリーライトスキャン開始前に、確認ダイアログを表示する
- ON : スキャン対象にする

#### グループリンク 1～3

(初期設定：☑00～☑99)

MENU > SET > スキャン設定 > グループリンク

グループリンクスキャン時、連続してスキャンするグループ(1～3)を設定します。

決定キーを押して、グループにチェックを入れる、またはチェックをはずします。

※チェックを入れたグループがグループリンクスキャンの対象になります。

#### DUPチェック(MRスキャン時) (初期設定：OFF)

MENU > SET > スキャン設定 > DUPチェック(MRスキャン時)

メモリスキャン時、デュプレックス設定しているメモリーチャンネルで、オフセット周波数分だけシフトした周波数もスキャン対象にするかどうかを設定します。

- OFF : スキャン対象にしない
- ON : スキャン対象にする

## 7 セットモード

### ■機能設定

#### オートパワーオフ (初期設定：OFF)

##### 時間設定 > オートパワーオフ

何も操作しない状態が一定時間つづくると自動的に電源を切るオートパワーオフ機能を設定します。

※電源が切れる約5秒前になると、「オートパワーオフ」が表示されると同時にピープ音がなります。

このあいだに操作をすると、タイマーを再セットします。

- OFF : オートパワーオフ機能が動作しない
- 30分～120分 : 自動的に電源が切れる時間を、30分、60分、90分、120分から選択する
- 無信号 : 3分間信号を受信しない状態がつづく、電源を切る

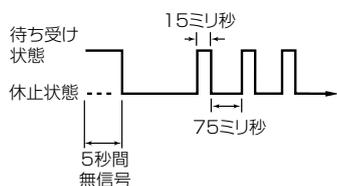
#### パワーセーブ (初期設定：オート(短))

##### MENU > SET > 機能設定 > パワーセーブ

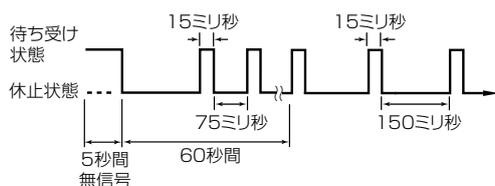
受信回路を間欠動作させることで電池の消耗を抑えるパワーセーブ機能を設定します。

※パワーセーブ動作時、受信したときに頭切れすることがありますのでご注意ください。

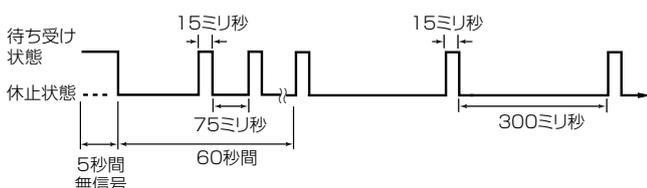
- OFF : パワーセーブなし
- オート(短) : パワーセーブ期間「短」



- オート(中) : パワーセーブ期間「中」



- オート(長) : パワーセーブ期間「長」



※以下の場合、パワーセーブ機能は動作しません。

- 外部電源で電源供給中
- スキャン動作中(4章)

#### モニター (初期設定：プッシュ)

##### MENU > SET > 機能設定 > モニター

モニター機能の動作を設定します。(簡易マニュアル3章)

- プッシュ : [SQL]を押しているあいだだけ、スケルチが開く
- ホールド : [SQL]を押すごとに、スケルチが開いたり閉じたりする

#### ダイヤル加速 (初期設定：ON)

##### MENU > SET > 機能設定 > ダイヤル加速

[DIAL]を速く回したとき、周波数の可変速度を一気に速くするときの設定です。

- OFF : 回す速さに応じて、変化する
- ON : 速く回すと、一気に可変速度が速くなる

#### キーロック (初期設定：ノーマル)

##### MENU > SET > 機能設定 > キーロック

ツマミ、およびキーの操作を無効にするキーロックについての設定です。

- ノーマル : [VOL]と[SQL]以外のキーをロックする
- SQL除く : [SQL]以外のキーをロックする
- VOL除く : [VOL]以外のキーをロックする
- すべて : すべてのキーをロックする

※いずれの場合も [P]と [M]はロックされません。

#### 周波数選択範囲 (初期設定：全バンド)

##### MENU > SET > 機能設定 > 周波数選択範囲

[DIAL]を回して選択する周波数範囲を、受信バンド内に固定するときの設定です。

- バンド内 : [DIAL]で選択できる周波数を、同一バンド内に固定する

※バンドエッジで[DIAL]を回したとき、表示しているバンド内の上端、または下端周波数に移動します。

- 全バンド : [DIAL]で選択できる周波数を、すべてのバンドに拡張する

※バンドエッジで[DIAL]を回したとき、表示しているバンドの次のバンドに移動します。

※「バンド内」に設定した状態で、ほかのバンドを受信するときは、左右キーでバンドを切り替えるか、QUICKメニューから「バンド切替」を選択します。

※[DIAL]を回したときの設定ですので、スキャンには影響しません。

## 7 セットモード

### ■機能設定

#### メモリーチャンネル選択範囲

(初期設定：現在のグループ内)

MENU > SET > 機能設定 > メモリーチャンネル選択範囲

[DIAL]を回して選択するメモリーチャンネルの選択範囲を、グループ内、またはカテゴリ内に固定するときの設定です。

- 現在のグループ内：表示している同一グループ内に固定する
  - 現在のカテゴリ内：表示している同一カテゴリ内に固定する
  - すべて：すべてのチャンネルに拡張する
- ※「すべて」以外に設定した状態で、ほかのグループ、またはカテゴリを受信するときは、QUICKメニューから「カテゴリ/グループ切替」を選択します。
- ※[DIAL]を回したときの設定ですので、スキャンには影響しません。

#### CI-Vアドレス

(初期設定：BO)

MENU > SET > 機能設定 > CI-V > CI-Vアドレス

CI-Vシステムを利用して、本製品を外部コントロールするときのアドレスを設定します。

- 選択肢：02～DF(16進数)

#### CI-Vボーレート(SP端子)

(初期設定：オート)

MENU > SET > 機能設定 > CI-V > CI-Vボーレート(SP端子)

CI-Vシステムを利用して、本製品の[Ⓜ]ジャック経由で本製品を外部制御するときのボーレートを設定します。

- 4800bps～19200bps  
：4800、9600、19200bpsの中から選択する
- オート：接続機器からのデータのボーレートに自動設定する

#### CI-Vトランシーブ

(初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > CI-V > CI-Vトランシーブ

CI-Vシステムを利用してパソコンから外部コントロールするとき、ほかの無線機や受信機などと連動して、本製品の周波数や受信モードなどを変更するときを設定します。

- OFF：ほかの機器と連動させない
  - ON：ほかの機器と設定の変更を連動させる
- ※接続しているほかのCI-V搭載機器の設定内容が変更されたときは、自動的に本製品の設定内容も変更されます。

#### CI-Vエコーバック(USB端子)

(初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > CI-V > CI-Vエコーバック(USB端子)

CI-Vシステムを利用して、本製品の[USB]ポート経由で本製品を外部制御するときのエコーバックを有効にするかどうかを設定します。

- OFF：エコーバックを無効にする
- ON：エコーバックを有効にする

#### CI-V USB→REMOTE トランシーブアドレス

(初期設定：00)

MENU > SET > 機能設定 > CI-V > CI-V USB→REMOTE トランシーブアドレス

「CI-Vトランシーブ」が「ON」のとき、USBケーブルを使ってリモート運用すると、本製品の[Ⓜ]ジャックを経由して同じシステム内にある機器を外部制御します。

弊社製機器の外部制御を禁止するときは、アドレスを「00」以外に設定します。

コントロール信号は、本製品の[Ⓜ]ジャックから出力されます。

- 選択肢：00～DF(16進数)

#### USB接続

(初期設定：シリアルポート)

MENU > SET > 機能設定 > USB接続

本製品とパソコンなどを、USBケーブルで接続したときの動作モードを設定します。

※動作モードを[DIAL]で選択後、決定キーを押すまで設定は確定されません。

- 充電のみ  
：電源供給だけをする
  - シリアルポート  
：CS-R15でプログラミングするときや、CI-Vによる外部制御など、外部機器とシリアル通信をするときに設定する
- ※パソコンなどに接続したとき、「」が表示されます。
- ※USBケーブルはデータ通信対応のものを使用してください。
- ※事前にUSBドライバーをパソコンにインストールしてください。
- SDカードモード  
：本製品に取り付けられているmicroSDカードを、USBメモリーとしてパソコンに認識させる(P.2-9)

#### USBドライバーについて

ご使用していただくために必要なUSBドライバー、およびインストールガイドについては、弊社ホームページにアクセスしていただき、サポート情報よりダウンロードしてください。

アクセス方法は、9-3ページをご覧ください。

アイコムホームページ <https://www.icom.co.jp/>

## 7 セットモード

### ■機能設定

#### ヘテロダイン (初期設定：ノーマル)

MENU > SET > 機能設定 > ヘテロダイン

デュアルワッチ中、2つの受信周波数の組み合わせによっては、内部の周波数関係により、信号を受信していなくてもSメーターが振れるといった受信スプリアスを発生することがあります。

このようなスプリアス障害を受けたときは、ヘテロダイン機能を使用すると、1st Lo(局部発振器)の周波数を反対側にシフトさせて内部の周波数関係を変えるので、スプリアス障害を改善できる場合があります。

- ノーマル : ヘテロダインを反転しない
- リバース : ヘテロダインを反転する

#### スクリーンキャプチャ 電源キー (初期設定：OFF)

MENU > SET > 機能設定 > スクリーンキャプチャ 電源キー

スクリーンキャプチャー動作を [ON] に割り当てる設定です。

- OFF : スクリーンキャプチャー機能は動作しない
- ON : [ON] を短く押すと、表示画面が microSD カードに保存される

#### スクリーンキャプチャ 保存形式 (初期設定：BMP)

MENU > SET > 機能設定 > スクリーンキャプチャ 保存形式

スクリーンキャプチャーした画像のファイルフォーマットの設定です。

- 選択肢 : PNG、BMP

## 7 セットモード

### ■ディスプレイ設定

#### バックライト (初期設定：オート(外部電源:ON))

MENU > SET > ディスプレイ設定 > バックライト

ディスプレイやキーの点灯動作を設定します。

- OFF : 点灯しない
- ON : 常時点灯する
- オート: キーや[DIAL]を操作したときに自動で点灯する  
バックライトタイマーの設定にしたがって  
ディマーが動作し、画面が薄暗くなる  
※外部電源使用時でも画面が薄暗くなります。
- オート(外部電源:ON)  
: バッテリーパック/バッテリーケース使用時は、  
キーや[DIAL]を操作したときに自動で点灯する  
バックライトタイマーの設定にしたがって  
ディマーが動作し、画面が薄暗くなる  
※外部電源使用時は常時点灯します。

※「オート」、または「オート(外部電源:ON)」が選択されている  
とき、**[⏸]**を短く押すと、バックライトタイマーで設定した  
時間だけバックライトが点灯します。

また、「スクリーンキャプチャ 電源キー」の設定がONのとき  
は、**[⏸]**を短く押すと、画面の保存をしながら設定した時間  
だけ点灯します。

#### バックライトタイマー (初期設定：10秒)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > バックライトタイマー

バックライトを「オート」、または「オート(外部電源:ON)」に  
設定したとき、操作しない状態が設定した時間経過すると、  
「ディマー」の設定に切り替わり、画面が薄暗くなります。

※「ディマー」の設定がOFFのときは、設定時間後、消灯します。

- 選択肢：5秒、10秒、30秒

#### 明るさ (初期設定：8)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 明るさ

バックライトの明るさを選択します。

- 選択肢：1(暗い)～8(明るい)

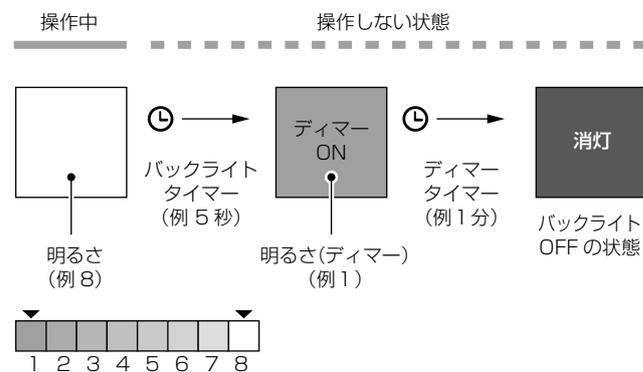
#### ディマー (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > ディマー

バックライトタイマーで設定した時間が経過したあと、画  
面を薄暗くするかどうかを設定します。

- OFF : ディマーを使用しない
- ON : 「ディマータイマー」で設定した時間だけ、画面  
を薄暗くする

#### バックライトとディマーの動作イメージ



#### ディマータイマー (初期設定：1分)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > ディマータイマー

消灯するまでの時間を設定します。

- 1分、2分、5分、10分  
: 選択した時間が経過すると、自動的に消灯する
- ホールド: 消灯せず、ディマー状態を維持する

#### 明るさ(ディマー) (初期設定：1)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 明るさ(ディマー)

ディマー動作時の明るさを設定します。

※「明るさ」の設定より暗くなるように設定します。

明るく設定した場合は、ディマーは動作しません。

※明るさは、「明るさ」の設定で確認できます。

- 選択肢：1(暗い)～7(明るい)

## 7 セットモード

### ■ディスプレイ設定

#### 受信バックライト(ラジオ除く) (初期設定：OFF)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 受信バックライト(ラジオ除く)

ラジオ以外の信号を受信したときに、バックライトを点灯するか、しないかを設定します。

- OFF : 信号を受信してもバックライトを点灯しない
  - ON : ラジオ以外を受信すると、バックライトを点灯する
- ※「バックライト」(P.7-9)を「オート」、または「オート(外部電源：ON)」に設定しているときだけ、動作します。
- ※「バックライト」を「ON」、または外部電源で使用時に「オート(外部電源：ON)」に設定している場合は、「受信バックライト(ラジオ除く)」の設定に関係なくバックライトが点灯します。
- ※消灯するまで時間は、「バックライトタイマー」と「ディマータータイマー」(P.7-9)の設定にしたいがいます。

#### スクロール速度 (初期設定：速い)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > スクロール速度

MENU画面の設定項目などの表示をスクロールしたときの表示速度を設定します。

- 遅い : ゆっくりスクロールする
- 速い : 速くスクロールする(「遅い」の約2倍の速さです)

#### オープニングメッセージ (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > オープニングメッセージ

オープニング画面の表示、または非表示の設定です。

- OFF : オープニング画面を表示しない
- ON : オープニング画面を表示する

#### 電池残量(パワーオン) (初期設定：ON)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 電池残量(パワーオン)

電源を入れたときに、電池残量を表示するかしないかを設定します。

- OFF : 電池残量を表示しない
- ON : 電池残量を表示する

#### 表示タイプ (初期設定：ネーム主体)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示タイプ

メモリーネームの表示のしかたを設定します。

- 周波数主体 : 周波数を大きく表示し、メモリーネームを小さく表示する
- ネーム主体 : メモリーネームを大きく表示し、周波数を小さく表示する

#### 表示言語 (初期設定：日本語)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > 表示言語

ディスプレイの表示言語を設定します。

- 選択肢 : 英語、日本語

#### システム言語 (初期設定：日本語)

MENU > SET > ディスプレイ設定 > システム言語

使用できる文字の種類を設定します。

#### ご注意

「システム言語」を「日本語」から「英語」に変えた場合、日本語を使って入力されたネームの表示や編集ができなくなります。入力に使われた、ひらがな、カタカナ、漢字、和文記号は、「=」と「\_」で表示されます。「システム言語」を「日本語」に戻すと、再度表示や編集ができるようになります。

- 英語 : ネームなどの文字列編集に、半角英数、英文記号だけが使用できる

入力モード	入力文字一覧
AB	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12	1234567890
記号	!"#\$%&'()*+,-./:;<=?@[ \ ] ^ _ {   } ~ ` . , ; ' " ' °

- 日本語 : ネームなどの文字列編集に、半角英数と英文記号に加え、全角文字(ひらがな、カタカナ、漢字)、和文記号が使用できる

入力モード	入力文字一覧
AB(全角/半角)	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
ab(全角/半角)	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
12(全角/半角)	1234567890
カナ(全角/半角)	アイウエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルレロワワン
あ漢	あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねのはひふへほまみむめもやゆよりるれるわをん (ひらがな1文字選択後、[QUICK]で漢字変換)
記号	パソコンのキーボードから入力できる記号は、すべて入力できます。
区点	JIS区点コードを利用して、文字や記号を入力できます。

※ ■ はスペースです

## 7 セットモード

### ■サウンド設定

#### ボリューム選択 (初期設定：すべて)

MENU > SET > サウンド設定 > ボリューム選択

音量を受信状況に応じて設定します。

- すべて：Aバンド、Bバンド、ラジオ、すべての音量を連動して設定する
- ラジオのみ個別  
：ラジオだけ別で音量を設定する
- 個別：Aバンド、Bバンド、ラジオ、それぞれ個別に設定する

#### イヤホンモード (初期設定：OFF)

MENU > SET > サウンド設定 > イヤホンモード

イヤホンを使用するとき、イヤホンからの音声を聞き取りやすい音量に自動調整します。

- OFF：イヤホンモードを使用しない
- ON：イヤホンモードを使用する

#### ご注意

イヤホンモード「ON」から「OFF」に戻す場合、イヤホンを耳に付けた状態では、音が大きくなって耳をいためるおそれがありますので、ご注意ください。

#### ビープレベル (初期設定：8)

MENU > SET > サウンド設定 > ビープレベル

キー操作音のビーブ音の音量を設定します。

※ビープレベルが「0」のときは、スキャンストップビーブは鳴りません。

※ビープレベルは、音量ツマミの操作と連動します。

- 選択肢：0(鳴らさない)～1(最小)～15(最大)

#### BEEP/VOLレベル連動 (初期設定：OFF)

MENU > SET > サウンド設定 > BEEP/VOLレベル連動

[VOL]での音量設定に応じて、ビーブ音量を変える設定です。

- OFF：[VOL]による音量設定でビーブ音量は変化しない
- ON：[VOL]による音量設定に応じてビーブ音量を変化させる

#### 操作音 (初期設定：ON)

MENU > SET > サウンド設定 > 操作音

操作時にビーブ音を鳴らす設定です。

- OFF：操作時にビーブ音を鳴らさない
- ON：操作時にビーブ音を鳴らす

#### スキャンストップビーブ (初期設定：OFF)

MENU > SET > サウンド設定 > スキャンストップビーブ

スキャン動作中に信号を受信してスキャンが一時停止したとき、ビーブ音を鳴らす設定です。

- OFF：ビーブ音を鳴らさない
- ON：ビーブ音を鳴らす

#### サブバンドミュート (初期設定：OFF)

MENU > SET > サウンド設定 > サブバンドミュート

デュアルワッチ中に、サブバンドの受信音を自動的にミュート(消音)する設定です。

※ミュート時は、「」が表示されます。

- OFF：サブバンドの受信音をミュートしない
- ミュート：メインバンドで受信したとき、サブバンドの受信音をミュートする
- ビーブ：サブバンドが受信していたとき、サブバンドの受信が終了するとビーブ音(ピツ)を鳴らす
- ミュート&ビーブ  
：メインバンドが受信しているとき、サブバンドの受信音をミュートする  
また、サブバンドが受信していたときに、サブバンドの受信が終了するとビーブ音を鳴らす  
※ビーブ音は、メインバンドの受信の有無に関わらず鳴ります。

## 7 セットモード

### ■時間設定

#### 日付

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定 > 日付

日付を設定します。

- 選択肢：2020/01/01～2099/12/31

#### 時間

MENU > SET > 時間設定 > 日時設定 > 時間

時刻を設定します。

- 選択肢：0:00～23:59

#### ご参考

CS-R15(別売品：プログラミングソフトウェア)で、IC-R15の時刻を設定できます。

## 7 セットモード

### ■SDカード

#### 設定ロード

MENU > SET > SDカード > 設定ロード

設定ファイルを読み込むときに、一覧から選択します。

※読み込みの操作は、2-4ページをご覧ください。

#### 設定セーブ

MENU > SET > SDカード > 設定セーブ

設定ファイルを保存します。

※保存の操作は、2-2ページをご覧ください。

#### インポート

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート > インポート

CSVフォーマットで保存されたメモリーチャンネル、ラジオメモリーを本製品に取り込みます。

#### エクスポート

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート > エクスポート

本製品で使用しているメモリーチャンネル、ラジオメモリーをCSVフォーマットに書き出します。

#### 区切り/小数点 (初期設定：区切り「,」 小数点「.」)

MENU > SET > SDカード > インポート/エクスポート > CSVフォーマット > 区切り/小数点

メモリーチャンネル、ラジオメモリーをCSV形式で出力するときの、項目の区切り文字と小数点の文字を設定できます。

- 区切り「,」 小数点「.」: 区切り文字を「,」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「;」 小数点「.」: 区切り文字を「;」、小数点文字を「.」にする
- 区切り「;」 小数点「,」: 区切り文字を「;」、小数点文字を「,」にする

#### オープニング画像

MENU > SET > SDカード > オープニング画像

オープニング画像に設定する画像ファイルを選択します。

(P.8-6)

#### SDカード情報

MENU > SET > SDカード > SDカード情報

microSDカードの空き容量、録音できる時間を確認します。

#### スクリーンキャプチャ表示

MENU > SET > SDカード > スクリーンキャプチャ表示

スクリーンキャプチャーした画像のファイル名を表示します。

※画像の確認方法は、8-5ページをご覧ください。

#### ファームアップ

MENU > SET > SDカード > ファームアップ

ファームアップモードを表示します。

※操作は、9章をご覧ください。

#### フォーマット

MENU > SET > SDカード > フォーマット

microSDカードを初期化します。

※初期化操作は、簡易マニュアル2章をご覧ください。

#### アンマウント

MENU > SET > SDカード > アンマウント

本製品の電源を入れた状態でmicroSDカードを安全に取りはすするためのアンマウント処理をします。

#### ご注意

アンマウントをせずにmicroSDカードを取りはすと、データ破損や消失の原因になります。

## 7 セットモード

### ■Bluetooth設定

Bluetooth (初期設定：OFF)

MENU > SET > Bluetooth設定 > Bluetooth

Bluetooth機能をON/OFFします。

- OFF : Bluetooth機能を使用しない
- ON : Bluetooth機能を使用する

#### 《ペアリング》

MENU > SET > Bluetooth設定 > 《ペアリング》

Bluetooth機器とペアリングするときの設定です。

※ペアリングについては、簡易マニュアルをご覧ください。

AF出力切替 (初期設定：ヘッドセットのみ)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > AF出力切替

Bluetooth対応のヘッドセットを接続している場合、本製品からの音声出力を設定します。

- ヘッドセットのみ  
: 本製品のスピーカーをOFFにし、ヘッドセットからだけ音声を出力する
- ヘッドセット&スピーカー  
: 本製品のスピーカーをONにし、ヘッドセットと本製品から音声を出力する

自動切断 (初期設定：OFF)

MENU > SET > Bluetooth設定 > ヘッドセット設定 > 自動切断

Bluetoothヘッドセットからの音声出力がなく、本製品を操作しない状態がつづいたとき、ヘッドセットとの音声接続を自動で切断するまでの時間を設定します。

- 選択肢：OFF、0秒～10秒

※音声接続を切断中に音声を受信したり、ビープ音が鳴ったり、操作したときは、自動で音声接続します。

※この設定で音声切断することにより、ヘッドセットのバッテリーライフを伸ばすことができます。

### 自機器情報

MENU > SET > Bluetooth設定 > 自機器情報

本製品に内蔵されているBluetoothユニットの情報が表示されます。

### Bluetoothユニット初期化

MENU > SET > Bluetooth設定 > Bluetoothユニット初期化

Bluetoothユニットを初期化します。

※Bluetoothユニットの初期化操作については、簡易マニュアルをご覧ください。

### ■その他

#### 電池状態

MENU > SET > その他 > 本体情報 > 電池状態

本製品のバッテリーパック(リチウムイオン電池)の状態(電池残量/バッテリーヘルス/充放電サイクル数)と、外部電源の接続状況を確認できます。

※電池残量は0～100%で表示されます。

※バッテリーヘルスは「良好」/「注意」/「警告」の3段階で表示されます。

「警告」の場合は、バッテリーパックが劣化していますので、早めに交換してください。

「注意」/「警告」の場合は、電源を入れたときに、注意画面、または警告画面が表示されます。

※バッテリーケース(BP-293)使用時は、乾電池の電圧が表示されます。

#### バージョン情報

MENU > SET > その他 > 本体情報 > バージョン情報

現在お使いの本製品に組み込まれているファームウェアのバージョンを確認できます。

#### クローンモード

MENU > SET > その他 > クローン > クローンモード

クローン書き込み、読み込みをするための画面を表示します。

※電源を入れなおすと、解除できます。

#### パーシャルリセット

MENU > SET > その他 > リセット > パーシャルリセット

パーシャルリセットをします。

※操作は、8-8ページをご覧ください。

#### オールリセット

MENU > SET > その他 > リセット > オールリセット

オールリセットをします。

※操作は、8-8ページをご覧ください。

ご使用になるmicroSDカードの  
取り付けや注意事項などは、簡易  
マニュアル6章をご覧ください。

- お気に入りモード ..... 8-2
  - ◇ お気に入り登録のしかた ..... 8-2
  - ◇ お気に入りモードの表示と解除 ..... 8-2
- TONE(トーン/コードスケルチ)機能 ..... 8-3
  - ◇ トーン/コードスケルチの設定 ..... 8-3
  - ◇ トーン周波数とDTCSコード一覧 ..... 8-3
- デュプレックス通信を受信する ..... 8-4
  - ◇ デュプレックス通信とは ..... 8-4
  - ◇ オフセット周波数とは ..... 8-4
  - ◇ デュプレックス通信の受信設定 ..... 8-4
- スクリーンキャプチャー機能 ..... 8-5
  - ◇ スクリーンキャプチャー機能の設定 ..... 8-5
  - ◇ スクリーンキャプチャーの操作 ..... 8-5
  - ◇ 保存した画面の確認と削除 ..... 8-5
- オープニング画像機能 ..... 8-6
- クローニング ..... 8-7
- リセット ..... 8-8
  - ◇ パーシャルリセットのしかた ..... 8-8
  - ◇ オールリセットのしかた ..... 8-8

## 8 詳細な機能と操作

### ■お気に入りモード

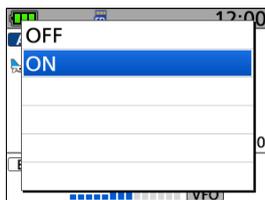
お気に入りモードは、お気に入り登録したチャンネルだけを操作できるモードです。

#### ◇お気に入り登録のしかた

1. メモリーモードで、お気に入り登録するチャンネルを表示させます
2. [QUICK]を短く押す
3. 「お気に入り登録」を選択する



4. 「ON」を選択する

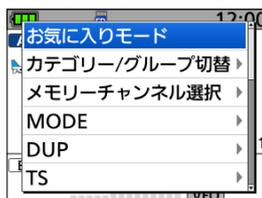


・「★」が表示されます。

※お気に入り登録を解除する場合は、手順4で「OFF」を選択します。

#### ◇お気に入りモードの表示と解除

1. メモリーモードで[QUICK]を短く押す
2. 「お気に入りモード」を選択する



・「お気に入りモード」が表示後、「★」が表示されます。

※A/Bバンド個別に両方設定できます。

※[DIAL]で、お気に入りに登録したチャンネルだけが選択できます。

※お気に入りモードを解除する場合は、手順2で「お気に入りモード解除」を選択します。



#### ご参考

メモリー管理のチャンネル一覧画面でお気に入り表示されます。また、チャンネルを選択した状態で[QUICK]を押しても、お気に入り登録ができます。



チャンネル一覧画面

## 8 詳細な機能と操作

### ■TONE(トーン/コードスケルチ)機能

受信した信号に同じトーン周波数、またはDTCSコードが重畳されているときだけ、スケルチが開き、音声が聞こえます。逆に、本製品で設定したトーン周波数やDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開かない逆トーンスケルチ/逆DTCS(TSQL-R/DTCS-R)も用途にあわせてご利用ください。

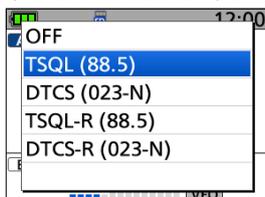
※FM/FM-Nモード時のQUICKメニューから設定できます。

#### ◇トーン/コードスケルチの設定

1. [QUICK]を短く押す
2. 「TONE」を選択する



3. トーンスケルチタイプを選択する(例：TSQL)



4. TSQL周波数、またはDTCSコードを選択する



※コードスケルチ使用時、コード検出時の位相を反転させる場合は、右キーでカーソルを位相表示にして、[DIAL]を回すとノーマルとリバースを切り替えられます。

- 画面の上にトーンスケルチタイプが表示されます。

#### ◇トーン周波数とDTCSコード一覧

##### トーン周波数(Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

##### DTCSコード

023	054	125	165	245	274	356	445	506	627	732
025	065	131	172	246	306	364	446	516	631	734
026	071	132	174	251	311	365	452	523	632	743
031	072	134	205	252	315	371	454	526	654	754
032	073	143	212	255	325	411	455	532	662	
036	074	145	223	261	331	412	462	546	664	
043	114	152	225	263	332	413	464	565	703	
047	115	155	226	265	343	423	465	606	712	
051	116	156	243	266	346	431	466	612	723	
053	122	162	244	271	351	432	503	624	731	

## 8 詳細な機能と操作

### ■デュプレックス通信を受信する

#### ◇デュプレックス通信とは

デュプレックス通信とは、送受信同一周波数のシンプレックス通信とは異なり、同一バンド内で送信と受信の周波数をずらして交信することです。

デュプレックス通信は、鉄道無線、国際VHF無線、430MHz帯のアマチュア無線(レピータシステム)など、広く利用されています。

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局と交信するために、通信範囲(通信距離)を拡大するための自動無線中継装置のことです。

◎「DUP+」設定時、モニター操作で、設定した周波数からオフセット周波数分高い周波数を受信できます。

◎「DUP-」設定時、モニター操作で、設定した周波数からオフセット周波数分低い周波数を受信できます。

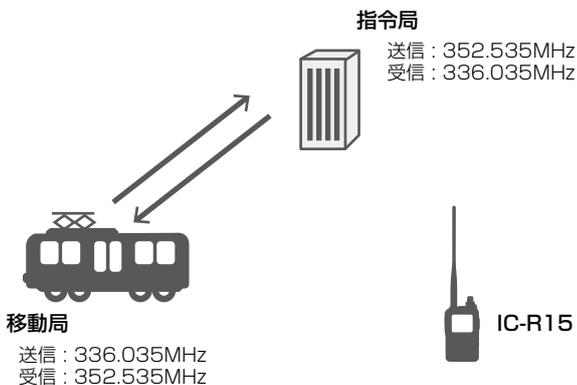
#### ◇オフセット周波数とは

デュプレックス通信で、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

デュプレックスとオフセット周波数は、QUICKメニューで設定します。

例：鉄道無線の移動局と指令局の交信を受信するには

#### 鉄道無線の概略と周波数例



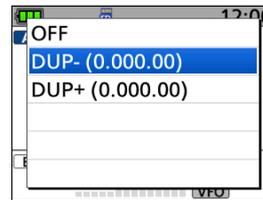
- 図の鉄道無線で運用されるデュプレックス通信は、オフセット周波数を16.5MHzに設定しています。上図の場合、指令局は336.035MHzの信号を受信し、352.535MHzで送信します。
- 本製品で上図のような交信を受信するには、デュプレックスモードとオフセット周波数の設定が必要です。
- デュプレックスモードは、次のように設定します。本製品の受信周波数を指令局の送信周波数(352.535MHz)に設定したときは「DUP-」に、レピータの受信周波数(336.035MHz)に設定したときは「DUP+」に設定してください。

#### ◇デュプレックス通信の受信設定

1. [QUICK]を短く押す
2. 「DUP」を選択する



3. デュプレックスモードを選択する
  - OFF：デュプレックスモードを解除します。
  - DUP-：モニター機能が動作中、オフセット周波数分低くなります。
  - DUP+：モニター機能が動作中、オフセット周波数分高くなります。



4. [DIAL]を回して、オフセット周波数を設定する(例：16.500.00MHz)  
※0.000.00MHz～159.999.99MHzの範囲で設定します。  
※設定している周波数ステップ(TS)で切り替わります。  
※430Mバンドは、レピータ受信用に5.000MHzを初期設定しています。
5. 決定キーを押す
  - 画面上側に「D-」、または「D+」が表示されます。



6. [SQL]を押す  
※押しているあいだ、モニター機能が動作して、設定したオフセット周波数分だけシフトした周波数を受信します。

#### ご参考

メモリスキャン時に、デュプレックスを設定しているメモリーチャンネルでは、オフセット周波数分だけシフトした周波数もメモリスキャン対象にできます。

(MENU > SET > スキャン設定 >

DUPチェック(MRスキャン時))

## 8 詳細な機能と操作

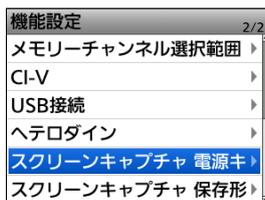
### ■スクリーンキャプチャー機能

本製品の表示画面を microSD カードに保存します。

#### ◇スクリーンキャプチャー機能の設定

MENU > SET > 機能設定 > スクリーンキャプチャ 電源キー

1. [MENU] を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「機能設定」を選択する
4. 「スクリーンキャプチャ 電源キー」を選択する



5. 「ON」を選択する

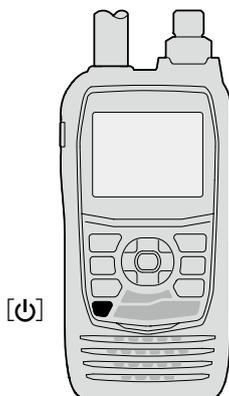


• キャプチャー機能が有効になります。

6. [MENU] を押す
  - MENU画面が解除されます。

#### ◇スクリーンキャプチャーの操作

1. スクリーンキャプチャーする画面を表示させる
2. [ON] を短く押す
  - 「画面の保存が完了しました。」と表示されます。



#### ◇保存した画面の確認と削除

MENU > SET > SDカード > スクリーンキャプチャ表示

1. [MENU] を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「SDカード」を選択する
4. 「スクリーンキャプチャ表示」を選択する



5. 表示させたいファイル名を選択する



• 選択したスクリーンキャプチャー画像が表示されます。  
※画像が表示された状態で[DIAL]を回すと、次の画像が表示されます。

6. 決定キーを押す
  - ファイル名の画面に戻ります。
7. [MENU] を押す
  - MENU画面が解除されます。

#### ご参考

手順5のファイル名表示画面で[QUICK]を押すと、画像のサイズやキャプチャー日時の確認、ファイルの削除ができます。

## 8 詳細な機能と操作

### ■オープニング画像機能

電源を入れたとき、任意の画像を表示させる機能です。

#### ご注意

オープニング画像の設定には、市販のmicroSDカードが必要です。

#### 使用できる画像について

- ファイル形式 : ビットマップ(.bmp)
- 画像サイズ : 296×222px(24bitカラー)
- ファイル名 : 半角20文字(全角10文字)以下(拡張子を除く)
- 保存ファイル数 : 100件

#### 1. microSDカードに画像を保存する

1. 表示させる画像を、あらかじめ本製品でフォーマットされたmicroSDカードの[IC-R15] > [OpeningPicture]フォルダーにコピーします。
2. 画像を保存したmicroSDカードを本製品に取り付けます。

#### 2. 本製品に画像を設定する

MENU > SET > SDカード > オープニング画像

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「SDカード」を選択する
4. 「オープニング画像」を選択する



5. 設定する画像ファイルを選択する



※microSDカードに設定できる画像が保存されていないときは、「-ファイルなし-」が表示されます。

6. 決定キーを押す
  - 「オープニング画像を設定しますか？」が表示されます。
  - ※画像を選択しなおすときは、[CLEAR]を押します。

7. 「はい」を選択する

- 本製品が再起動し、設定した画像が表示されます。
- ※一度読み込んだオープニング画像は、microSDカードを取りはずしても保持されます。
- また、パーシャルリセットやオールリセットをしても消去されません。
- ※オープニング画像を非表示にするには、手順5で「<<オープニング画像設定解除>>」を選択してください。



## 8 詳細な機能と操作

### ■クローニング

クローニングとは、本製品に設定したメモリーチャンネル、MENU画面の各設定項目、ラジオメモリーなどの情報を、ほかの本製品にコピーする機能です。

市販のmicroSDカードを使って、本製品(親機)から本製品(子機)にクローニングする方法を説明します。

※microSDカードに録音した録音データは、クローニングするデータに含まれません。

親機のmicroSDカードをそのまま子機に取り付けるか、パソコンを使用して録音データを子機のmicroSDカードにコピーすると、子機側でも再生できます。

※microSDカードは、あらかじめ取り付けられているものとして説明します。

#### ご注意

◎本製品の電源を切った状態で、microSDカードの取り付け、取りはずしをしてください。

◎設定データをmicroSDカードに保存中、または設定データを本製品に読み込んでいるときは、絶対に本製品の電源を切らないでください。

途中で電源を切ると、データが消失する原因になります。

※microSDカードについて詳しくは、簡易マニュアル6章をご覧ください。

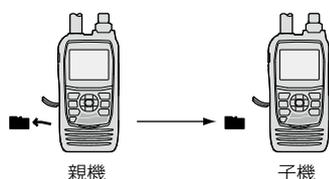
### 1.親機の設定データをmicroSDカードに保存する

MENU > SET > SDカード > 設定セーブ

保存のしかたは、2-2ページをご覧ください。

### 2.親機のmicroSDカードを取りはずし子機に取り付ける

1. 親機の[]を長く押して、電源をOFFにする
2. 親機からmicroSDカードを取りはずす
3. 親機から取りはずしたmicroSDカードを、子機に取り付け、子機の[]を長く押して電源を入れる



### 3.子機に設定データを読み込ませる

MENU > SET > SDカード > 設定ロード

親機で保存した設定データを子機に読み込ませます。設定データの読み込みは、2-4ページをご覧ください。

#### ご参考

設定データは、CS-R15(別売品：プログラミングソフトウェア)で使用しているファイル形式(icfファイル)でmicroSDカードに保存されます。

microSDカードに保存した設定データをパソコンに取り込んで、CS-R15で編集することもできます。

詳しくは、CS-R15取扱説明書をご覧ください。

## 8 詳細な機能と操作

### ■リセット

静電気などによる外部要因で、本製品の動作や表示内容に異常があると思われた場合は、いったん電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。

それでも改善しない場合は、次のようにパーシャルリセット、またはオールリセット操作をしてください。

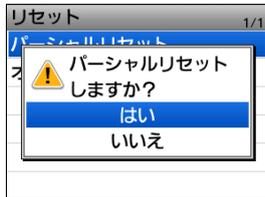
#### ◇パーシャルリセットのしかた

MENU > SET > その他 > リセット > パーシャルリセット

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「その他」を選択する
4. 「リセット」を選択する
5. 「パーシャルリセット」を選択する



6. 確認画面で「はい」を選択する



- 「パーシャルリセット」が表示されたあと、初期画面になります。

#### パーシャルリセット後も残るデータ

- ◎ メモリーチャンネルデータ
- ◎ スキャンエッジ
- ◎ ラジオメモリー
- ◎ オープニング画像

#### ご注意

オールリセットすると、記憶しているデータがすべて消去されますのでご注意ください。

※Bluetoothペアリング情報と、オープニング画像は消去されません。

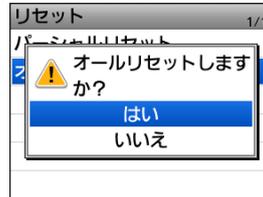
#### ◇オールリセットのしかた

MENU > SET > その他 > リセット > オールリセット

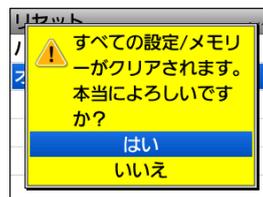
1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「その他」を選択する
4. 「リセット」を選択する
5. 「オールリセット」を選択する



6. 確認画面で「はい」を選択する



7. 確認画面で「はい」を選択する



- 「オールリセット」が表示されたあと、初期画面になります。

#### オールリセット操作をしたときは

記憶されているデータはすべて消去され、変更した設定はすべて初期設定に戻ります。

プリセットされた航空や鉄道の周波数や各都道府県のラジオメモリーなどもすべて消去されるため、もう一度受信に必要な周波数や受信モードなどを書き込んでご使用ください。

プリセットメモリーは、弊社ホームページにアクセスしていただき、サポート情報よりダウンロードしてください。

アクセス方法は、9-3ページをご覧ください。

アイコムホームページ <https://www.icom.co.jp/>

ご使用になるmicroSDカードの  
取り付けや注意事項などは、簡易  
マニュアル6章をご覧ください。

■ ファームウェアの更新 .....	9-2
◇ ファームウェアバージョンの確認 .....	9-2
◇ ファームウェアのダウンロードとファイルの確認 .....	9-3
■ ファームウェアの更新方法 .....	9-4

## 9 ファームアップ

### ■ファームウェアの更新

ファームウェアとは、本製品を制御するために組み込まれているソフトウェアのことです。

最新のファームウェアは、弊社ホームページからダウンロードできます。

<https://www.icom.co.jp/support/personal/>

※インターネットに接続できる環境やパソコンがない場合のファームアップは、弊社サポートセンターにご相談ください。(簡易マニュアル)

※弊社ホームページに掲載のファームウェアバージョン番号が、お使いの製品に組み込まれているバージョン番号よりも数字が大きければ、ファームウェアを更新することで、機能が追加されたり、機能が向上したりします。

#### 重要

本製品のファームウェア更新には、あらかじめ、本製品でフォーマットされたmicroSDカードをお使いください。(簡易マニュアル1章)

弊社ホームページからダウンロードした圧縮ファイルを展開後、microSDカードに自動で作成されたIC-R15フォルダーにコピーしてください。

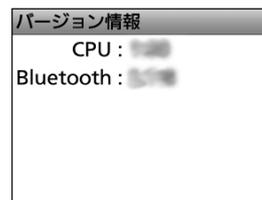
詳しい手順は、本章でご確認ください。

### ◇ファームウェアバージョンの確認

MENU画面で、ファームウェアのバージョン情報を確認できます。

MENU > SET > その他 > 本体情報 > バージョン情報

1. [MENU]を短く押す
2. 「SET」を選択する
3. 「その他」を選択する
4. 「本体情報」を選択する
5. 「バージョン情報」を選択する



- ファームウェアバージョンが表示されます。

#### ご参考

ファームウェアのバージョンは、電源を入れたときのオープニング画面でも確認できます。



ファームウェアバージョンを表示

## 9 ファームアップ

### ■ファームウェアの更新

#### ◇ファームウェアのダウンロードとファイルの確認

弊社ホームページにアクセスして、以下の手順でダウンロードしてください。

アイコム株式会社 サポート情報(個人のお客様)  
https://www.icom.co.jp/support/personal/

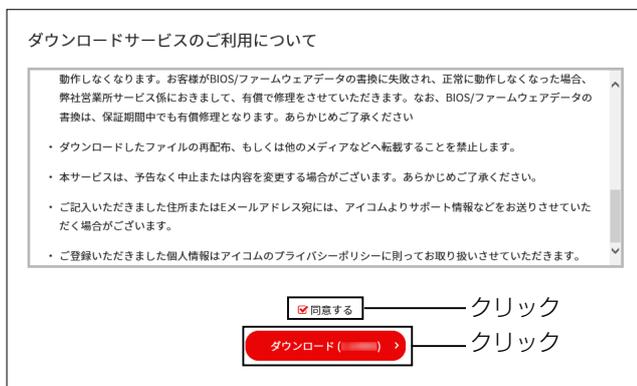
1. 「ダウンロード(ファームウェア・ドライバ)」をクリックします。



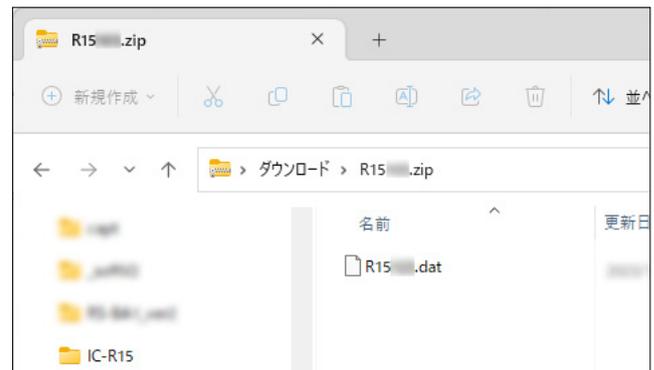
2. 「IC-R15」を入力し、【検索する】をクリックします。



3. 本製品のファームウェアアップデートのリンクをクリックします。
4. 画面下部に表示された「ダウンロードサービスのご利用について」をご理解いただき、「同意する」にチェックを入れてから【ダウンロード】をクリックします。
  - ・ファームアップデータのダウンロードを開始します。



5. ダウンロードが完了したら、画面右上に表示される「ファイルを開く」をクリックします。
  - ※ダウンロードの手順は、ご使用のWWWブラウザやその設定によって異なる場合があります。
  - ※「R15\*」フォルダー内に、ファームウェア(R15\*.dat)が格納されています。
    - (\*は、リリース番号を意味します。)



## 9 ファームアップ

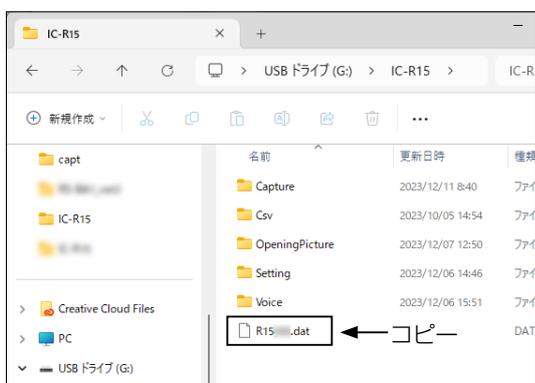
### ■ファームウェアの更新方法

本製品のファームウェアを更新する手順です。

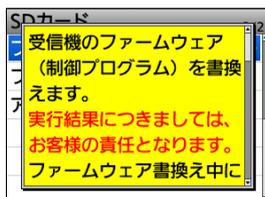
#### △注意

満充電に近いバッテリーパックを取り付けてください。  
ファームウェアの更新中は、絶対に本製品の電源を切らないでください。  
更新中に電源を切ると、データの消失や故障の原因になります。  
なお、ファームアップの実行結果については、お客様ご自身の責任となります。

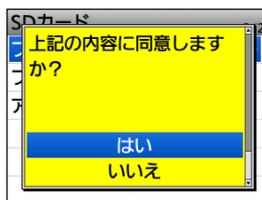
1. ファームウェア(例：R15\*.dat)を、あらかじめ本製品でフォーマットされたmicroSDカードのIC-R15フォルダーにコピーします。



2. ファームウェアを書き込んだmicroSDカードを本製品に取り付けます。
3. SDカード画面を表示させます。(MENU > SET > SDカード)
4. 「ファームアップ」を選択する

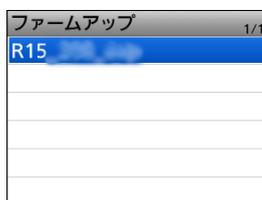


5. 記載内容をよくお読みいただき、同意するときは「はい」を選択する

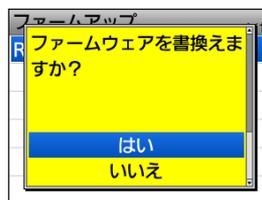
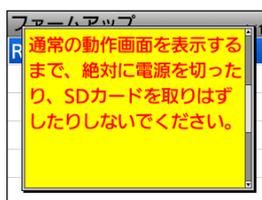
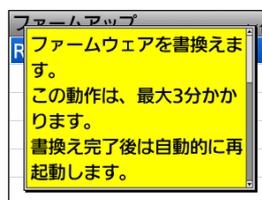


- 設定データを保存するか、確認する画面が表示されます。「はい」を選択すると、microSDカードに設定データとメモリ保存後、ファームウェアの選択画面が表示されます。  
※中止するときは、「いいえ」を選択します。

6. ファームウェア(例：R15\*)を選択します。



7. 記載内容をよくお読みいただき、実行するときは、「はい」を選択する



※中止するときは、「いいえ」を選択します。

8. ファームアップが完了すると、本製品が自動的に再起動し、通常画面が表示されます。

#### ご参考

データ通信対応のUSBケーブルで本製品とパソコンを接続し、MENU画面で「USB接続」を「SDカードモード」に設定すると、microSDカードを抜き差しせずにパソコンからmicroSDカードにアクセスできます。(P.2-9)  
(MENU > SET > 機能設定 > USB接続)

■ 別売品一覧 ..... 10-2

## 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる本製品の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

# 10 別売品

## ■別売品一覧

### イヤホン

SP-40 イヤホン(φ3.5mm)

### バッテリー関連

BC-223 急速充電器(ACアダプターを含む)

BP-287 リチウムイオンバッテリーパック  
(付属品と同一)

[3.6V Min:3120mAh、Typ:3280mAh]

BP-293 バッテリーケース(単3形アルカリ乾電池用)

### その他

CS-R15 プログラミングソフトウェア

MB-127 ベルトクリップ(付属品と同一)

LC-203 キャリングケース

※ストラップを取り付けているときは、キャ  
リングケースのマジックテープにひっか  
けないように装着してください。

※バッテリーケース(BP-293)装着時は、  
使用できません。

## 定格 Section 11

---

■ 一般仕様 .....	11-2
■ 受信部 .....	11-2
■ Bluetooth®部 .....	11-3
■ BP-287 バッテリーパック(付属品) .....	11-3
■ BC-223 充電器(別売品) .....	11-3

# 11 定格

## ■一般仕様

受信周波数範囲	A/Bバンド : 108.000000 ~ 253.795000MHz 255.000000 ~ 261.995000MHz 266.000000 ~ 270.995000MHz 275.000000 ~ 380.195000MHz 381.325000 ~ 411.995000MHz 414.400000 ~ 500.000000MHz BCバンド : 76.000000 ~ 108.000000MHz(Aバンドのみ)
受信モード	FM/FM-N/WFM/AM/AM-N ※WFMはFMラジオのみ
使用温度範囲	-20℃~+60℃
周波数安定度	25℃の値に対して±2.5ppm以下(-20℃~+60℃)
周波数分解能	5/6.25/8.33*/10/12.5/15/20/25/30/50/100/125/200(kHz) ★8.33はVHFエアバンドのみ
メモリーチャンネル数	メモリーチャンネル : 2000チャンネル(100グループ) オートメモリーライト : 200チャンネル スキップチャンネル : 100チャンネル プログラムスキャンエッジ : 25組
ラジオチャンネル数	500チャンネル
外部電源	DC5.0V±5%([USB]ポート使用時)
標準バッテリー	DC3.6V(付属バッテリーパックBP-287使用時)
接地方式	マイナス接地
アンテナインピーダンス	50Ω 不平衡
外形寸法	58(W)×116(H)×33.8(D)mm(突起物を除く)
重量	約150g(付属品を除く)

## ■受信部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
中間周波数	Aバンド 1st : 58.050000MHz 2nd : 0.450000MHz Bバンド 1st : 57.150000MHz 2nd : 0.450000MHz
選択度	FM/AM 50dB以上 WFM 35dB以上
低周波出力 (3.6V時)	外部スピーカー 120mW 以上(8Ω 10%歪率時) 内部スピーカー 400mW 以上(8Ω 10%歪率時)
消費電流	受信時 380mA typ. 待ち受け時 150mA typ. パワーセーブ時 80mA typ. ※条件 : 3.6V時/FMモード/シングル表示/録音機能OFF/バックライト機能OFF

### 受信感度/スケルチ感度

受信モード	受信周波数範囲(MHz)	受信感度	スケルチ感度
AM 10dB S/N 1kHz/30%	108.000000 ~ 142.000000	0dB $\mu$ 以下	0dB $\mu$ 以下
	222.000000 ~ 249.995000	0dB $\mu$ 以下	0dB $\mu$ 以下
	250.000000 ~ 299.995000	5dB $\mu$ 以下	5dB $\mu$ 以下
	300.000000 ~ 400.000000	3dB $\mu$ 以下	3dB $\mu$ 以下
FM 12dB SINAD 1kHz/3.5kHz	108.000000 ~ 249.995000	-8dB $\mu$ 以下	-8dB $\mu$ 以下
	250.000000 ~ 299.995000	-3dB $\mu$ 以下	-3dB $\mu$ 以下
	300.000000 ~ 500.000000	-5dB $\mu$ 以下	-5dB $\mu$ 以下
WFM 12dB SINAD 1kHz/52.5kHz	76.000000 ~ 108.000000	0dB $\mu$ 以下	5dB $\mu$ 以下

# 11 定格

## ■Bluetooth®部

適合規格	Bluetooth Ver.5.2準拠
送信出力	Class1
対応プロファイル	HFP (Ver.1.8)
デバイス名	ICOM BT R15

## ■BP-287 バッテリーパック(付属品)

種類	リチウムイオン電池
出力電圧	DC3.6V
容量	3120mAh(min.) 3280mAh(typ.)
使用温度範囲	-20~+60℃
充電温度範囲	15~40℃
保管温度範囲	-20~+50℃(約1ヵ月) -20~+40℃(約3ヵ月) -20~+20℃(約1年)
寸法	57.4(W)×84.5(H)×13.1(D)mm(突起物を除く)
重量	約82g

## ■BC-223 充電器(別売品)

入力電圧範囲	DC12~16V ※BC-223に付属のACアダプターを使用
使用温度範囲	15~40℃
寸法	87(W)×47.3(H)×71(D)mm
重量	約120g(ACアダプターを除く)

測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。  
定格、外観、仕様などは、改良のため予告なく変更することがあります。

# How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

